

2026 衆院選 モニタ一連続調査 報告書

（2026年1月16日～3月2日調査）

<公示前>

I	目的・設計・回答状況	1
II	調査結果 (i)単純集計	3
	(ii)概要	4
	(iii)集計表	9
	(iv)「その他」の回答	17
III	調査票	18

<選挙後>

I	目的・設計・回答状況	25
II	調査結果 (i)単純集計	27
	(ii)概要	30
	(iii)集計表	47
	(iv)「その他」の回答	67
III	調査票	69



一般社団法人 長野県世論調査協会

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧いただくことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ

2026 衆院選 公示前 モニター調査

報告書

(2026 年 1 月 16 日～1 月 26 日調査)

I	目的・設計・回答状況	1
II	調査結果 (i)単純集計	3
	(ii)概要	4
	(iii)集計表	9
	(iv)「その他」の回答	17
III	調査票	18

I 目的・設計・回答状況

◆ 目的

昨年10月、自民党総裁選を経て高市早苗氏が首相に選出され、10月21日に高市内閣が発足しました。2026年1月23日に召集された通常国会の冒頭で衆議院が解散され、通常国会冒頭での解散は1966年の佐藤栄作内閣以来、60年ぶりとなりました。今回の選挙は、自民党と日本維新の会の連立のもとで臨む初めての衆議院選挙となりました。

有権者は高市政権の政治姿勢や政策課題をどう受け止めているのか、衆議院選挙の投票先を決める際、どんな政策を重視しようとしているのかなど、当協会の登録モニターを対象に傾向を探ります。

◆ 設計

▽調査時期 2026（令和8）年1月16日（調査票発送）～1月26日（投函締め切り）

▽調査対象 長野県世論調査協会に登録している県内在住の18歳以上のモニター（調査協力者）617人

※年代や性別、選挙区別の比率が県内の縮図に近づくよう選定している

▽調査方法 調査票を郵送。回答は郵送の他、インターネット、ファクスで回収

【モニター調査】 長野県世論調査協会の登録モニター（調査協力者）を対象とする郵送方式の政治意識調査。1995年から実施している。同じ集団を対象にトレンドや変化をみるのが主な目的。選挙人名簿等から調査対象者を無作為抽出する世論調査や、選挙情勢調査とは異なる。

◆ 回答状況

▽有効回答 551人（男性 277人 女性 271人 回答しない3人）

▽回答率 89.3%

[回収方法別の内訳]（）内は比率

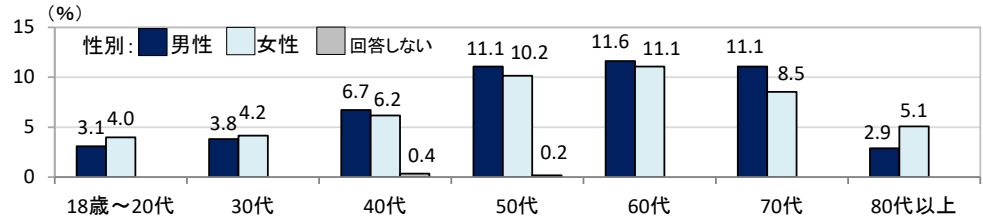
- ・郵送 299人（54.3%）
- ・インターネット 181人（32.8%）
- ・ファクス 71人（12.9%）

【注】本報告書のパーセント数字は小数点第二位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

有効回答の内訳

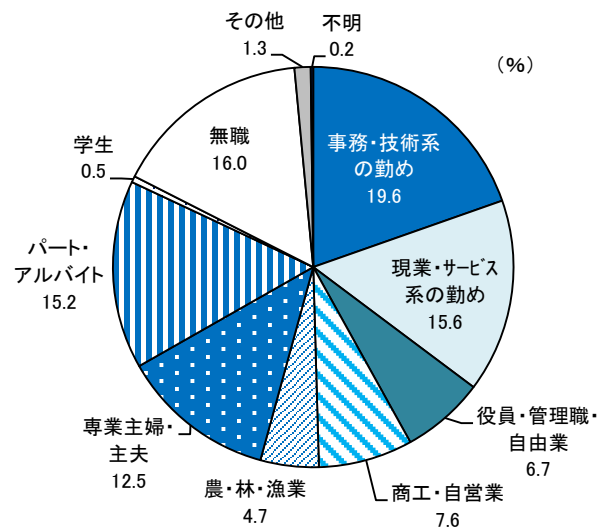
【年代別と性別】

年代別		合計	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
		(人) 551	39	44	73	118	125	108	44
		(%) 100.0	7.1	8.0	13.2	21.4	22.7	19.6	8.0
性別	男性	(人) 277	17	21	37	61	64	61	16
		(%) 50.3	3.1	3.8	6.7	11.1	11.6	11.1	2.9
	女性	(人) 271	22	23	34	56	61	47	28
		(%) 49.2	4.0	4.2	6.2	10.2	11.1	8.5	5.1
	回答しない	(人) 3	-	-	2	1	-	-	-
		(%) 0.5	-	-	0.4	0.2	-	-	-



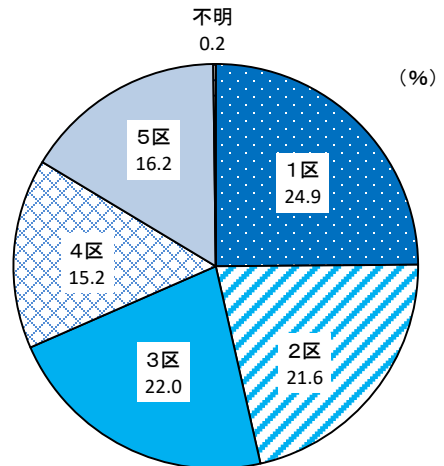
【職業別】

	(人)	(%)
事務・技術系の勤め	108	19.6
現業・サービス系の勤め	86	15.6
役員・管理職・自由業	37	6.7
商工・自営業	42	7.6
農・林・漁業	26	4.7
専業主婦・主夫	69	12.5
パート・アルバイト	84	15.2
学生	3	0.5
無職	88	16.0
その他	7	1.3
不明	1	0.2
全体	551	100.0



【選挙区別】

	(人)	(%)
1区	137	24.9
2区	119	21.6
3区	121	22.0
4区	84	15.2
5区	89	16.2
不明	1	0.2
全体	551	100.0



(ii) 概要

有効回答 551 人

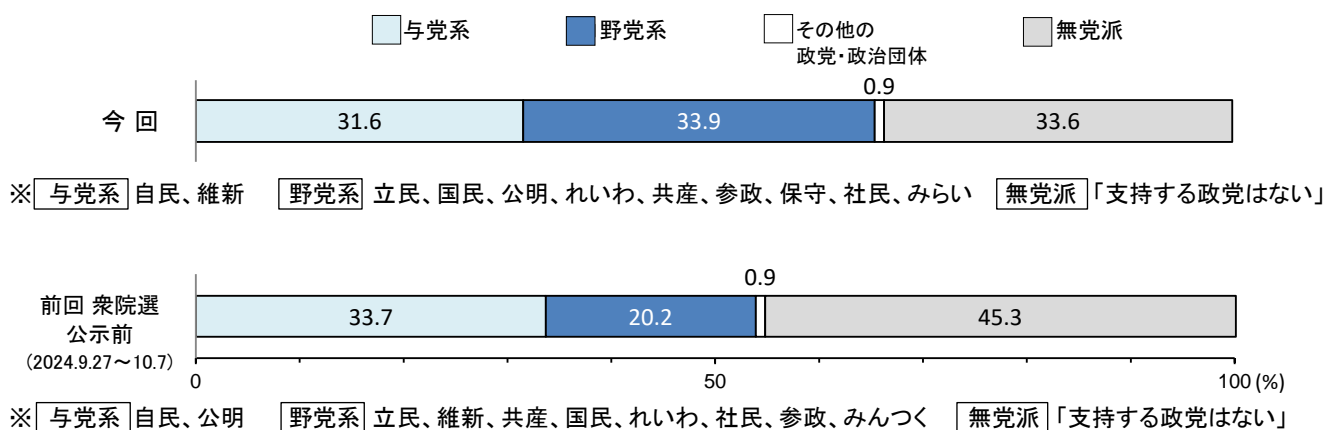
支持政党

問1 あなたは、どの政党を支持していますか。次の中から1つ選んでください。

◆「支持する政党はない」最多 33.6%

集計表9ページ

全体（551人）では、「支持する政党はない」の無党派が最多 33.6%、続いて「自民党」28.5%、「立憲民主党（新党を含む）」が 13.2%となった。自民と維新を合計した与党系は 31.6%、その他の野党を合計した野党系は 33.9%で、与党系と野党系の差は小さい。前回（2024年衆院選公示前調査）と比べると、与党系は 2.1ポイント下降、野党系は 13.7ポイント上昇、無党派は 11.7ポイント下降しており、無党派の比率が低下する一方で野党系の支持が拡大した。



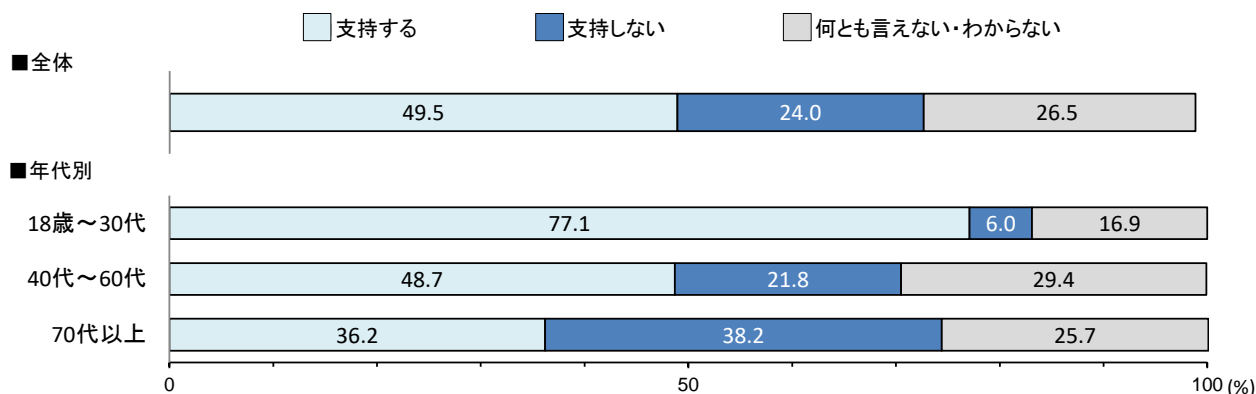
高市政権を支持しますか

問2 あなたは、高市政権を支持しますか。支持しませんか。

◆ 高市政権「支持」49.5%、「どちらとも言えない」26.5%

集計表10ページ

高市政権を「支持する」が最多の 49.5%、「支持しない」は 24.0%、「何とも言えない・わからない」は 26.5%となった。年代別では、18歳～30代が 77.1%、40代～60代が 48.7%、70代以上が 36.2%で、若年層の支持が高く、年齢が上がるほど支持が低下する傾向となった。



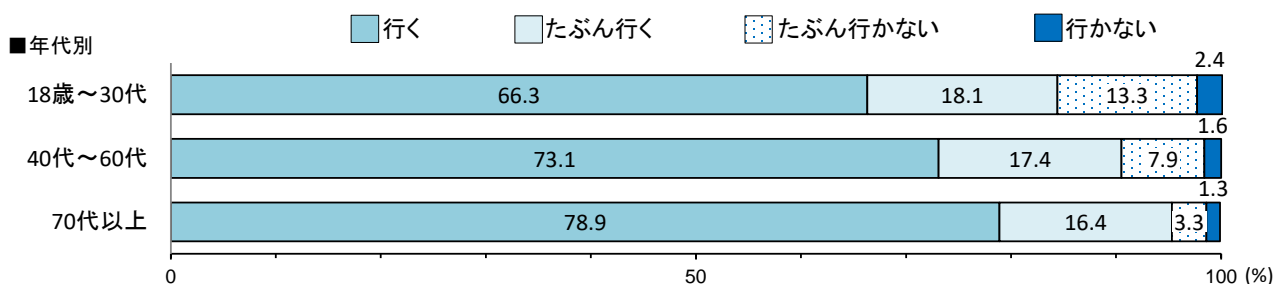
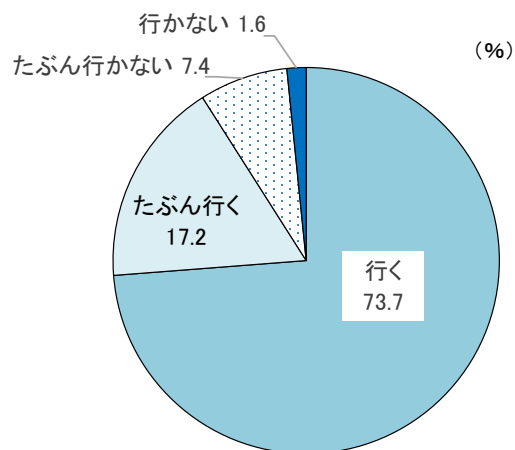
投票に行くか

問3 あなたは、2月8日から15日投開票が想定されている今回の衆議院選挙で投票に行くつもりですか。

◆「行く」73.7%、「たぶん行く」17.2%

「行く」が最多の73.7%、次いで「たぶん行く」17.2%、「たぶん行かない」7.4%、「行かない」1.6%。合わせて約9割が投票に前向きである。年代別では年代が高いほど「行く」の割合が高く、若年層では「たぶん行く」「たぶん行かない」が多くなる傾向。

集計表11ページ



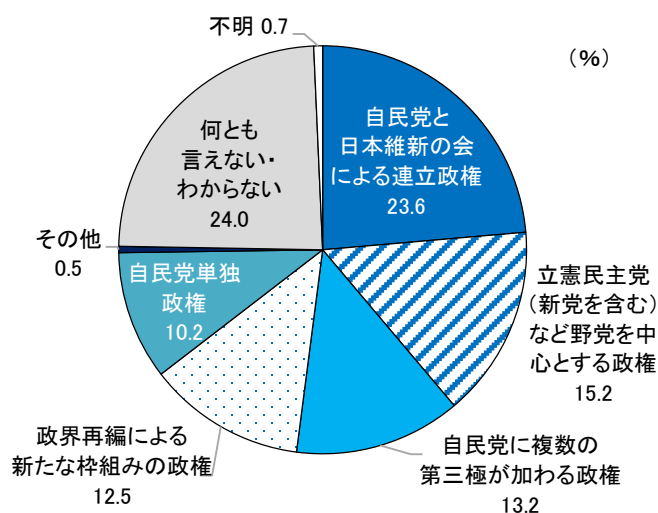
望ましい政権の枠組み

問4 あなたは、今回の衆議院選挙後、どのような政権の枠組みが望ましいと思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

◆「自民党と日本維新の会による連立政権」が最多23.6%

全体では「自民党と日本維新の会による連立政権」が最多23.6%。次いで「立憲民主党（新党を含む）など野党を中心とする政権」が15.2%、「自民党に複数の第三極が加わる政権」が13.2%、「政界再編による新たな枠組みの政権」が12.5%、「自民党単独政権」10.2%と続く。「何とも言えない・わからない」は24.0%だった。

集計表12ページ



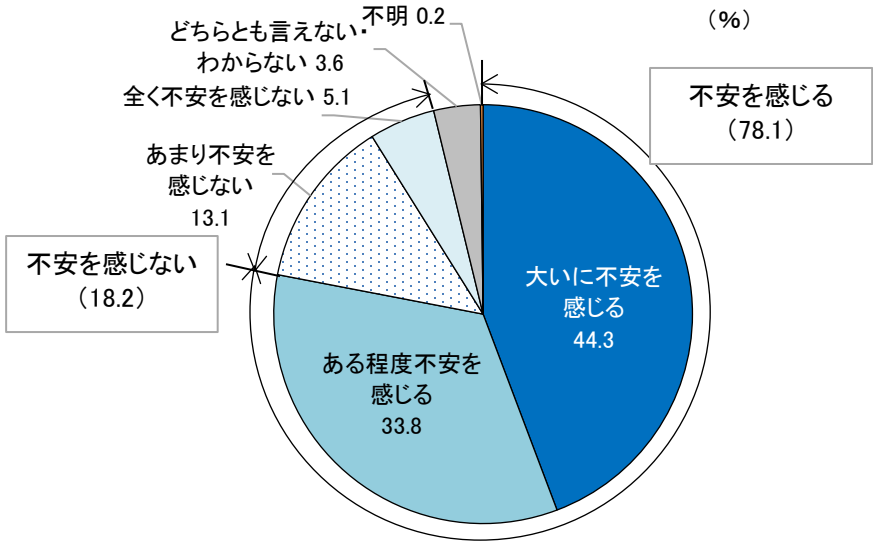
解散による年度内の予算成立の行方

問5 今回の解散により、年度内の当初予算案成立が難しくなり、物価高対策などが遅れる可能性があるとの指摘があります。あなたは、この点をどう感じますか。

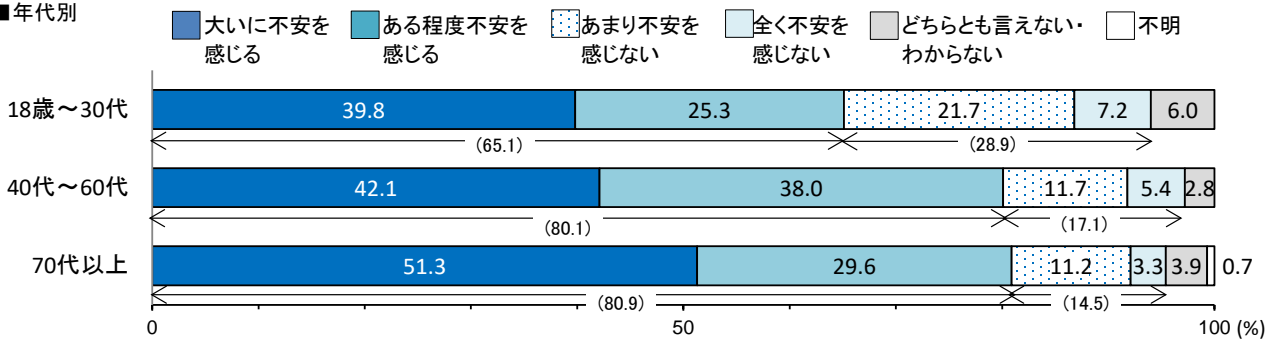
◆ 物価高対策遅れる可能性「不安を感じる」計 78.1%

集計表13ページ

全体では「大いに不安を感じる」が44.3%。「ある程度不安を感じる」が33.8%で、不安を示した割合は合計で78.1%。「あまり不安を感じない」は13.1%、「全く不安を感じない」は5.1%。不安を感じる層が8割近くを占めた。特に70代以上は「大いに不安を感じる」が半数を超えた。



■ 年代別



解散のタイミング

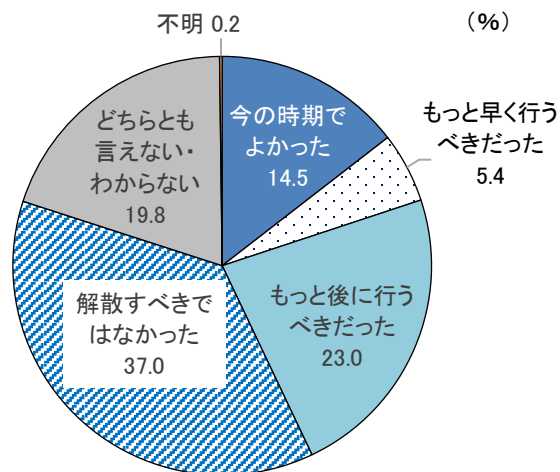
問6 あなたは、今回の解散のタイミングについて、どう感じていますか。

集計表14ページ

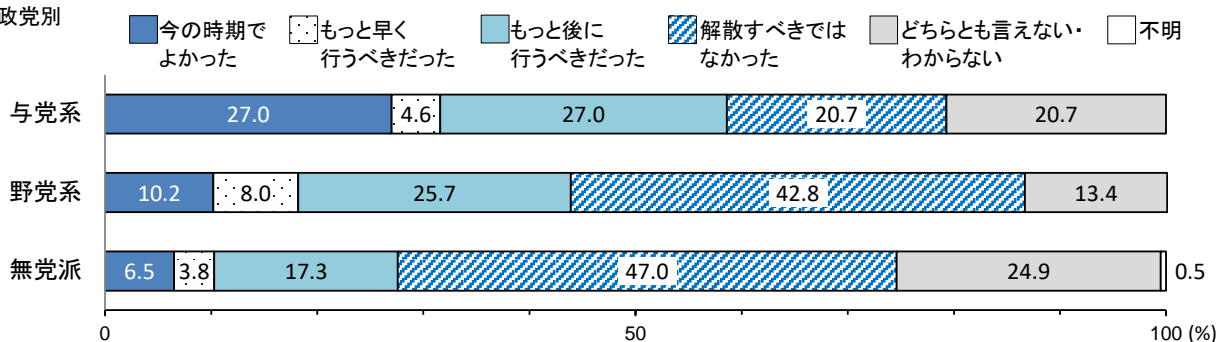
◆「解散すべきではなかった」37.0%

「解散すべきではなかった」が最多で37.0%。次いで「もっと後に行うべきだった」が23.0%、「どちらとも言えない・わからない」の19.8%が続いた。「今の時期でよかった」は14.5%、「もっと早く行うべきだった」は5.4%だった。

与党系支持層は「今の時期でよかった」が27.0%、野党系支持層は「解散すべきではなかった」が42.8%を占めた。無党派層は「解散すべきではなかった」が47.0%で最多。「どちらとも言えない・わからない」も24.9%を占めた。



■支持政党別



※ 与党系 自民、維新 野党系 立民、国民、公明、れいわ、共産、参政、保守、社民、みらい 無党派 「支持する政党はない」

衆院選で重視する政策

問7 あなたは、今回の衆議院選挙で投票先を決める際、特にどんな分野の政策を重視しますか。3つ以内で選んでください。

◆「物価高対策」が最多6割超

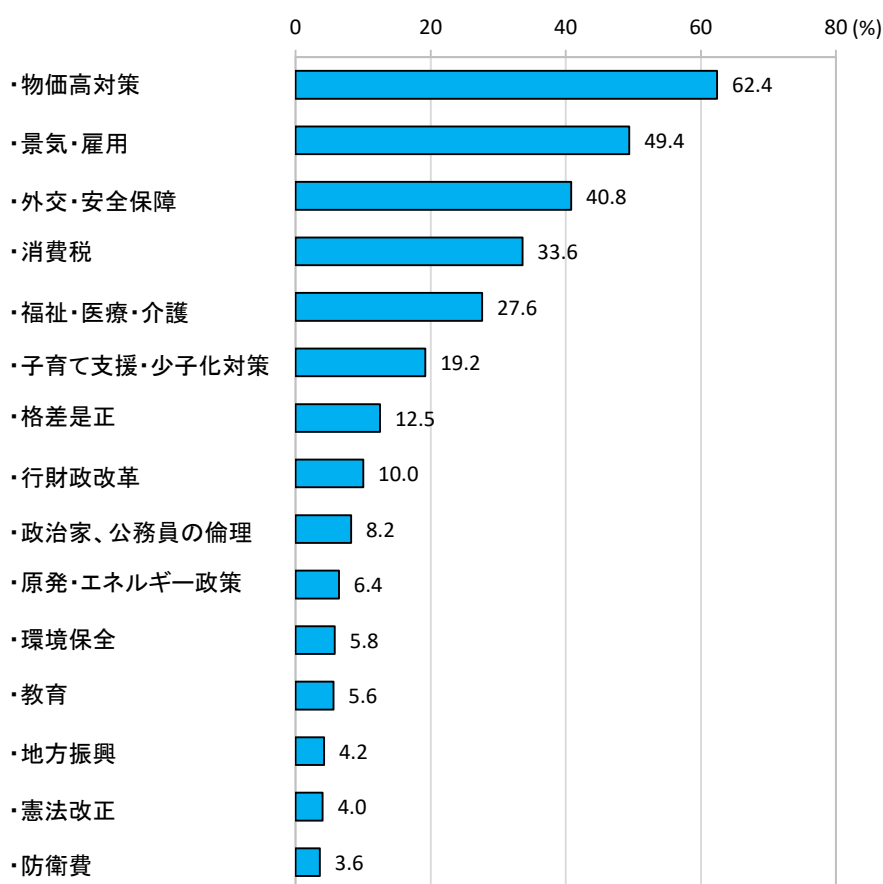
集計表15ページ

「物価高対策」が62.4%と唯一6割を超えて最多。次いで「景気・雇用」が49.4%となり、生活・経済分野への関心が高かった。さらに「外交・安全保障」（40.8%）、「消費税」（33.6%）、「福祉・医療・介護」（27.6%）が高い割合を占めた。

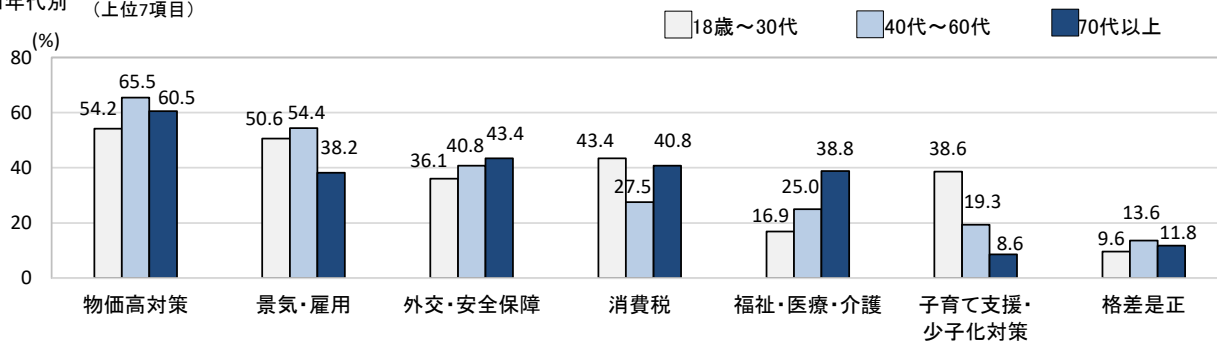
「子育て支援・少子化対策」（19.2%）、「格差是正」（12.5%）、「行財政改革」（10.0%）も1割以上が挙げた。

年代別にみると、「物価高対策」は全年代で高く、「景気・雇

用」は18歳～30代、40代～60代が高かった。「消費税」は18歳～30代と70代以上で高く、4割を超えた。「外交・安全保障」は70代以上が高い結果となった。



■年代別 (上位7項目)



Ⅲ 調査票

「2026衆院選 モニター連続調査（公示前）」調査票

問1 あなたは、どの政党を支持していますか。次の中から1つ選んでください。

- ① 自民党
- ② 立憲民主党（新党を含む）
- ③ 日本維新の会
- ④ 国民民主党
- ⑤ 公明党（新党を含む）
- ⑥ れいわ新選組
- ⑦ 共産党
- ⑧ 参政党
- ⑨ 日本保守党
- ⑩ 社民党
- ⑪ チームみらい
- ⑫ その他の政党・政治団体
- ⑬ 支持する政党はない

問2 あなたは、高市政権を支持しますか。支持しませんか。

- ① 支持する
- ② 支持しない
- ③ 何とも言えない・わからない

問3 あなたは、2月8日か15日投開票が想定されている今回の衆議院選挙で投票に行くつもりですか。

- ① 行く
- ② たぶん行く
- ③ たぶん行かない
- ④ 行かない

問4 あなたは、今回の衆議院選挙後、どのような政権の枠組みが望ましいと思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

- ① 自民党と日本維新の会による連立政権
- ② 自民党単独政権
- ③ 自民党に複数の第三極が加わる政権
- ④ 立憲民主党（新党を含む）など野党を中心とする政権
- ⑤ 政界再編による新たな枠組みの政権
- ⑥ その他（)
- ⑦ 何とも言えない・わからない

問5 今回の解散により、年度内の当初予算案成立が難しくなり、物価高対策などが遅れる可能性があるとの指摘があります。あなたは、この点をどう感じますか。

- ① 大いに不安を感じる
- ② ある程度不安を感じる
- ③ あまり不安を感じない
- ④ 全く不安を感じない
- ⑤ どちらとも言えない・わからない

問6 あなたは、今回の解散のタイミングについて、どう感じていますか。

- ① 今の時期でよかった
- ② もっと早く行うべきだった
- ③ もっと後に行うべきだった
- ④ 解散すべきではなかった
- ⑤ どちらとも言えない・わからない

問7 あなたは、今回の衆議院選挙で投票先を決める際、特にどんな分野の政策を重視しますか。3つ以内で選んでください。

- ① 外交・安全保障
- ② 格差是正
- ③ 環境保全
- ④ 教育
- ⑤ 行財政改革
- ⑥ 景気・雇用
- ⑦ 原発・エネルギー政策
- ⑧ 憲法改正
- ⑨ 子育て支援・少子化対策
- ⑩ 消費税
- ⑪ 政治家、公務員の倫理
- ⑫ 地方振興
- ⑬ 福祉・医療・介護
- ⑭ 物価高対策
- ⑮ 防衛費
- ⑯ その他（)

問8 A あなたは、今回の衆議院選挙の比例代表（北陸信越ブロック）で、どの政党に投票するか、決めていますか。決めていませんか。

- ① 決めている → B、問9 Aへ
② 決めていない → 問9 Aへ

B（問8 Aで「① 決めている」とお答えの方にお尋ねします）
それは、どの政党ですか。

- ① 自民党 ⑦ れいわ新選組
② 立憲民主党（新党を含む） ⑧ 社民党
③ 日本維新の会 ⑨ 参政党
④ 公明党（新党を含む） ⑩ 日本保守党
⑤ 共産党 ⑪ チームみらい
⑥ 国民民主党 ⑫ その他の政党・政治団体

（全員の方にお尋ねします）

問9 A では、あなたは、今回の衆議院選挙の小選挙区で、だれに投票するか、決めていますか。決めていませんか。

- ① 決めている → B、問10（次頁）へ
② 決めていない → 問10（次頁）へ

B（問9 Aで「① 決めている」とお答えの方にお尋ねします）
それは、どの政党の候補ですか。

- ① 自民党
② 立憲民主党（新党を含む）
③ 日本維新の会
④ 共産党
⑤ 参政党

(全員の方にお尋ねします)

問10 衆議院選挙の小選挙区で、だれに投票するかを決める際、あなたは、何を判断基準としますか。3つ以内で選んでください。

- ① 経歴・実績
- ② 後援会や知人の薦め
- ③ 支持団体
- ④ 所属政党
- ⑤ 政策・公約
- ⑥ 性別
- ⑦ 年齢
- ⑧ 人柄・印象
- ⑨ その他 ()
- ⑩ 何とも言えない・わからない

誠にお手数ですが、以下3項目のご記入も、よろしくお願いいたします

<性別> ① 男性 ② 女性 ③ 回答しない

--

<年代> ① 10代 ⑤ 50代
 ② 20代 ⑥ 60代
 ③ 30代 ⑦ 70代
 ④ 40代 ⑧ 80代以上

--

<職業> ① 事務・技術系の勤め ⑥ 専業主婦・主夫
 ② 現業・サービス系の勤め ⑦ パート・アルバイト
 ③ 役員・管理職・自由業 ⑧ 学生
 ④ 商工・自営業 ⑨ 無職
 ⑤ 農・林・漁業 ⑩ その他
 (具体的に)

--

<最後までご回答ありがとうございました>

お忙しいところ恐縮ですが、1月26日(月)までにご回答ご投函願います。なお、次回調査は、選挙後を予定しています。引き続き、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2026 衆院選 選挙後 モニター調査

報告書

(2026 年 2 月 16 日～3 月 2 日調査)

I	目的・設計・回答状況	25
II	調査結果 (i) 単純集計	27
	(ii) 概要	30
	(iii) 集計表	47
	(iv) 「その他」の回答	67
III	調査票	69

I 目的・設計・回答状況

◆ 目的

2026年2月8日に投開票された衆議院選挙では、自民、日本維新の会の与党が大きく議席を伸ばし、自民党は単独政党として戦後初めて3分の2を超える議席を獲得しました。一方、立憲民主党と公明党が合流して結成した「中道改革連合」は、野党勢力として初めて臨んだ衆議院選挙でしたが、厳しい結果となりました。

本調査は、当協会が衆院選公示前に実施した事前調査に続く「連続調査」として位置づけられます。登録モニターが衆院選でどのような選択をし、結果をどう受け止めているのか、また高市首相が選挙後に示した政策課題についてどのような意識を持っているのかなど、政治意識の傾向を探りました。

◆ 設 計

▽調査時期 2026（令和8）年2月16日（調査票発送）～3月2日（回収締め切り）

▽調査対象 長野県世論調査協会に登録している県内在住の18歳以上のモニター（調査協力者）615人
※年代や性別、選挙区別の比率が県内の縮図に近づくよう選定している

▽調査方法 調査票を郵送。回答は郵送の他、インターネット、ファクスで回収

【モニター調査】 長野県世論調査協会の登録モニター（調査協力者）を対象とする郵送方式の政治意識調査。1995年から実施している。同じ集団を対象にトレンドや変化をみるのが主な目的。選挙人名簿等から調査対象者を無作為抽出する世論調査や、選挙情勢調査とは異なる。

◆ 回答状況

▽有効回答 576人（男性276人 女性296人 回答しない4人）

▽回答率 93.7%

[回収方法別の内訳]（）内は比率

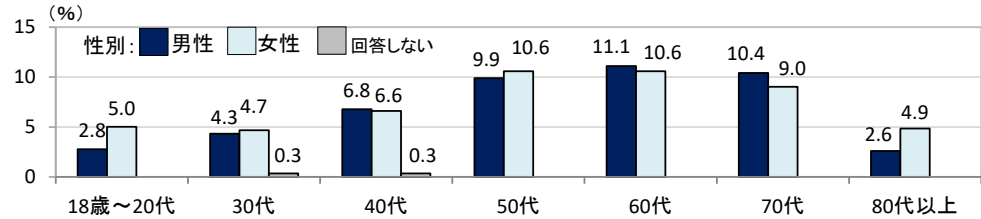
・郵送	307人（53.3%）
・インターネット	196人（34.0%）
・ファクス	73人（12.7%）

【注】本報告書のパーセント数字は小数点第二位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

有効回答の内訳

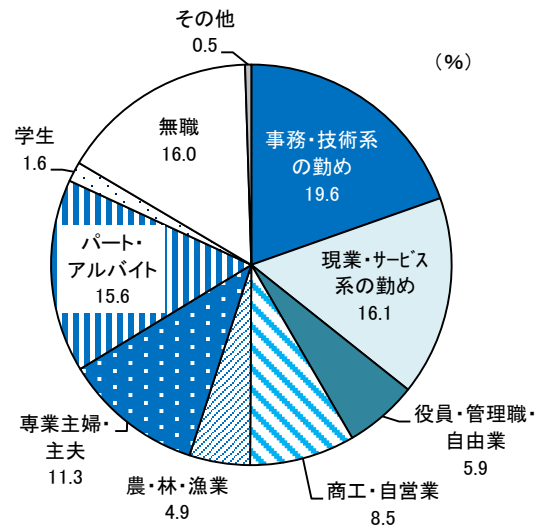
【年代別と性別】

年代別		合計	18歳～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
		(人) 576	45	54	79	118	125	112	43
		(%) 100.0	7.8	9.4	13.7	20.5	21.7	19.4	7.5
性別	男性	(人) 276	16	25	39	57	64	60	15
		(%) 47.9	2.8	4.3	6.8	9.9	11.1	10.4	2.6
	女性	(人) 296	29	27	38	61	61	52	28
		(%) 51.4	5.0	4.7	6.6	10.6	10.6	9.0	4.9
	回答しない	(人) 4	-	2	2	-	-	-	-
		(%) 0.7	-	0.3	0.3	-	-	-	-



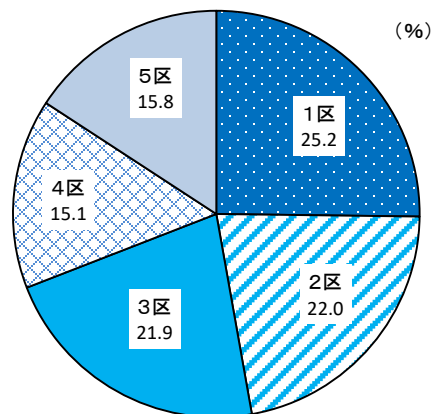
【職業別】

	(人)	(%)
事務・技術系の勤め	113	19.6
現業・サービス系の勤め	93	16.1
役員・管理職・自由業	34	5.9
商工・自営業	49	8.5
農・林・漁業	28	4.9
専業主婦・主夫	65	11.3
パート・アルバイト	90	15.6
学生	9	1.6
無職	92	16.0
その他	3	0.5
全体	576	100.0



【選挙区別】

	(人)	(%)
1区	145	25.2
2区	127	22.0
3区	126	21.9
4区	87	15.1
5区	91	15.8
全体	576	100.0



(ii) 概要

自民党が3分の2超の議席獲得 どう受け止めるか

問1 今回の衆議院選挙で、自民党が単独で3分の2を超える議席を得た結果について、あなたはどうか受け止めますか。

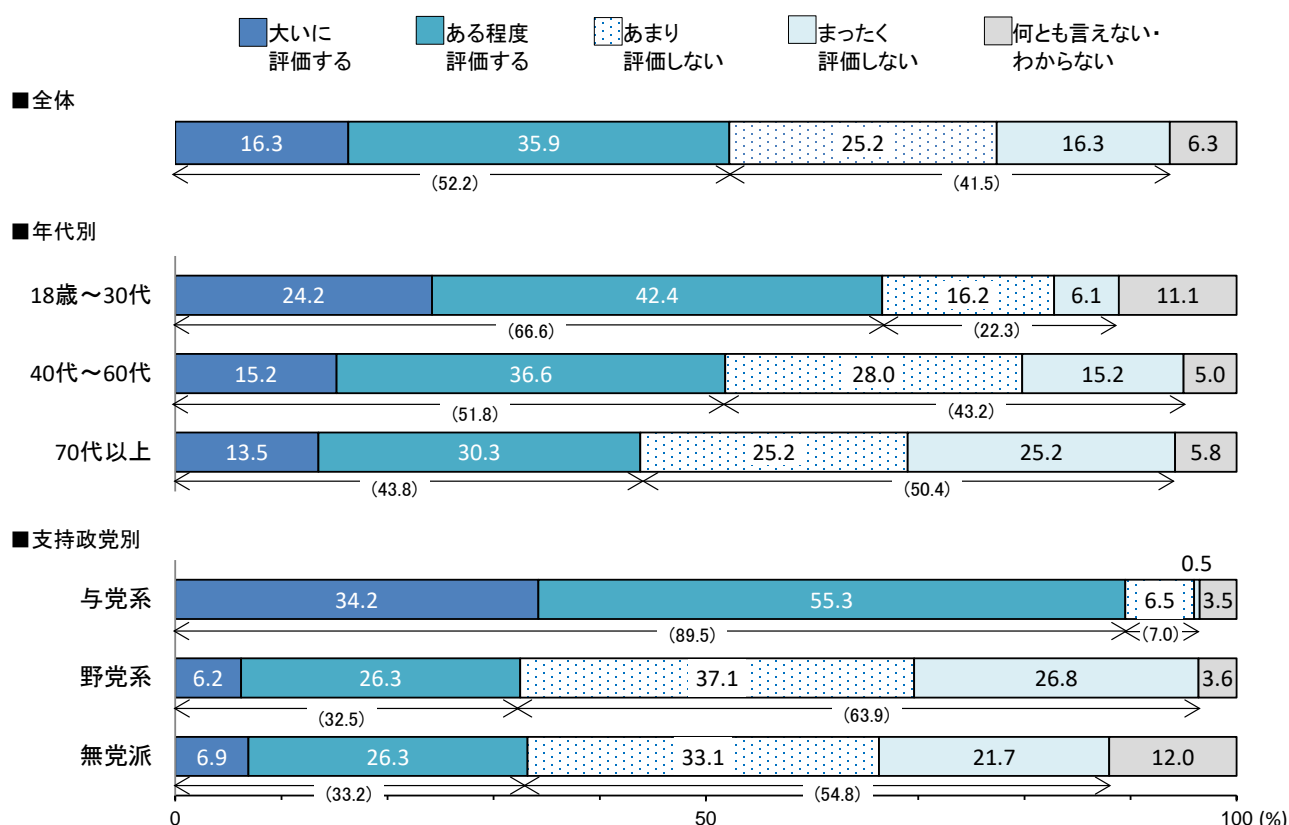
集計表47ページ

◆「評価する」が5割強、「評価しない」が4割強

「ある程度評価する」が最多で35.9%、「大いに評価する」の16.3%と合わせ「評価する」が計52.2%と5割強を占めた。一方「あまり評価しない」も25.2%に上り、「まったく評価しない」の16.3%と合わせ「評価しない」が41.5%と一定数を占めた。「何とも言えない・わからない」は6.3%だった。

年代別では、若い年代ほど「評価する」の声が大きく、18歳～30代は66.6%と6割を超えた。40代～60代は51.8%で5割超。70代以上は43.8%で、「評価しない」(50.4%)が上回った。

支持政党別では、「評価する」「評価しない」の割合は、与党系支持層は89.5%と7.0%、野党系支持層は32.5%と63.9%、「支持する政党はない」の無党派層では33.2%と54.8%だった。



※ 与党系 自民、維新 野党系 中道、国民、参政、みらい、共産、れいわ、減ゆ連、立民、公明、保守、社民 無党派 「支持する政党はない」

自民党が県内5小選挙区全勝 どう受け止めるか

問2 今回の衆議院選挙で、自民党が長野県内の5小選挙区で全勝しました。これは現行選挙制度が導入された1996年以降で初めてです。この結果について、あなたは受け止めますか。

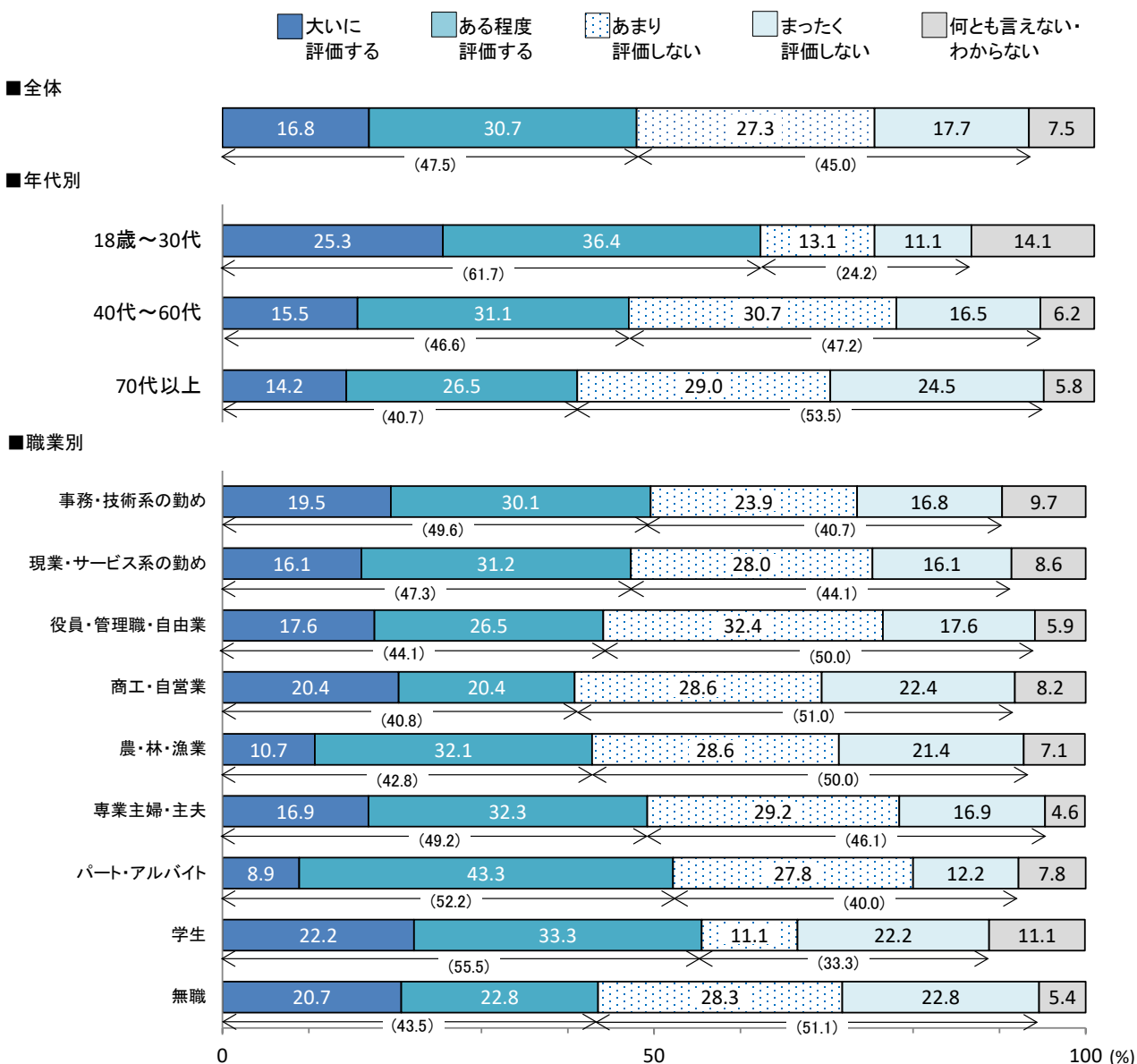
◆「評価する」「評価しない」拮抗

集計表48ページ

「ある程度評価する」が最多の30.7%で、「大いに評価する」の16.8%を合わせた「評価する」が計47.5%。一方で「あまり評価しない」も27.3%に上り、「まったく評価しない」の17.7%と合わせた「評価しない」は45.0%で、ほぼ拮抗する結果となった。

年代別では、若い年代で「評価する」が高く、18歳～30代は61.7%と6割を超えた。40代～60代は「評価する」と「評価しない」がほぼ拮抗、70代以上では「評価しない」が53.5%と5割を超えた。

職業別にみると、パート・アルバイト、学生では「評価する」が過半数となった一方、商工・自営業と無職では「評価しない」が5割を超えた。



高市政権を支持するか

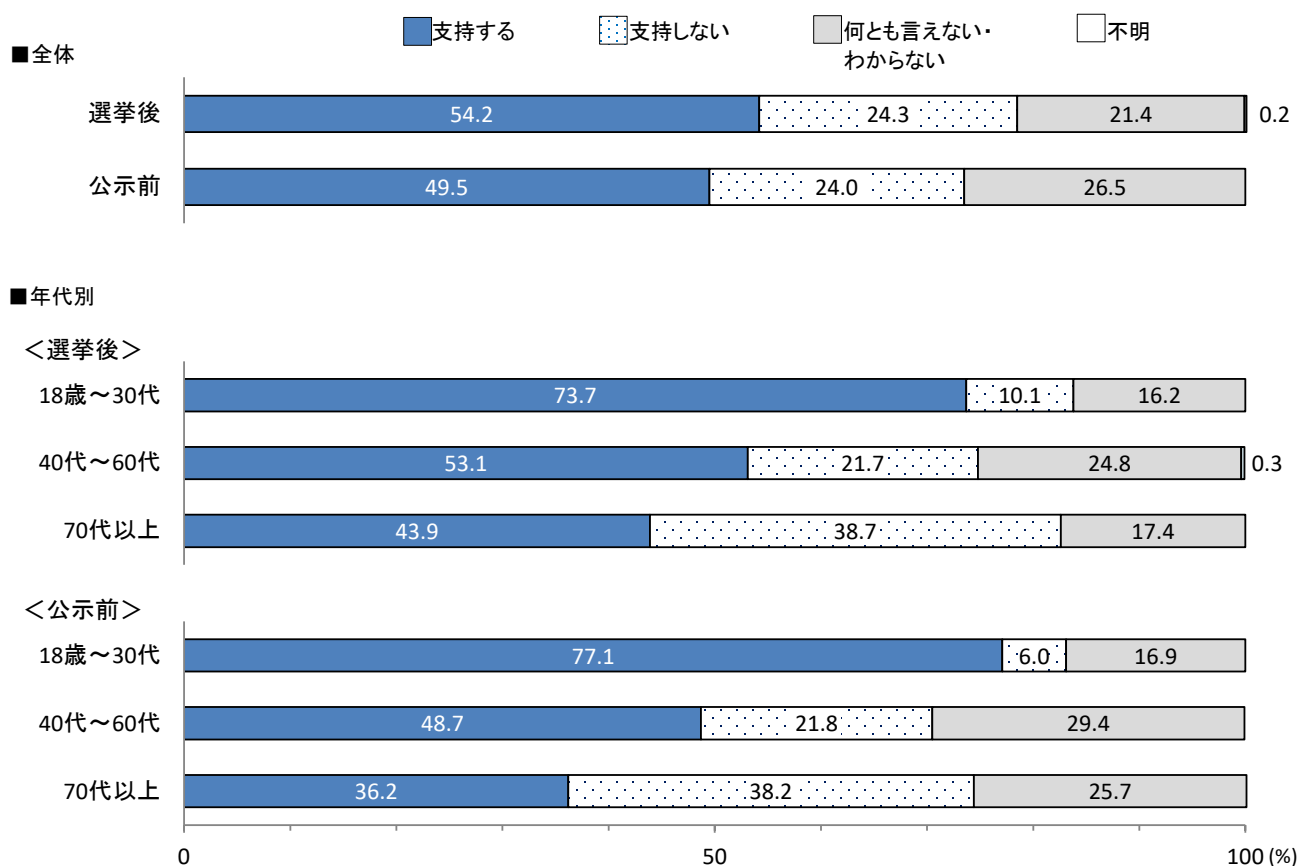
問3 今回の衆議院選挙後の国会で、引き続き高市早苗氏が首相に指名される見通しです。あなたは高市政権を支持しますか。

◆ 高市政権「支持する」54%、「支持しない」24%

集計表49ページ

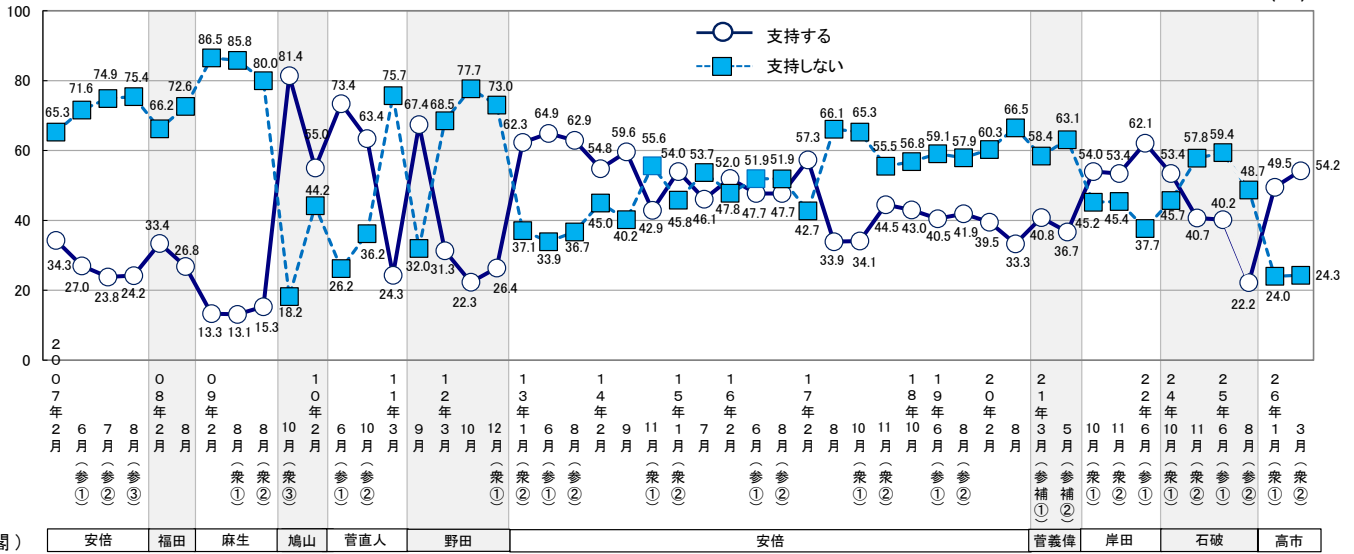
高市政権を「支持する」は54.2%となり、公示前調査（49.5%）から4.7ポイント上昇した。一方で、「支持しない」は24.3%で、公示前調査（24.0%）と比べ、ほぼ横ばい。「何とも言えない・わからない」は21.4%で、公示前調査（26.5%）から5.1ポイント減った。

年代別にみると、若い年代ほど「支持する」が高く、18歳～30代は73.7%と7割を超え、40代～60代は53.1%、70代以上は43.9%となった。ただ、公示前調査と比べると、18歳～30代は「支持する」の割合が3.4ポイント下降した一方、40代～60代では4.4ポイント上昇、70代以上では7.7ポイントも上昇しており、高い年代で支持率が高まる結果となった。



【内閣支持の推移】モニター調査（定例調査と衆・参院選連続調査）

(%)



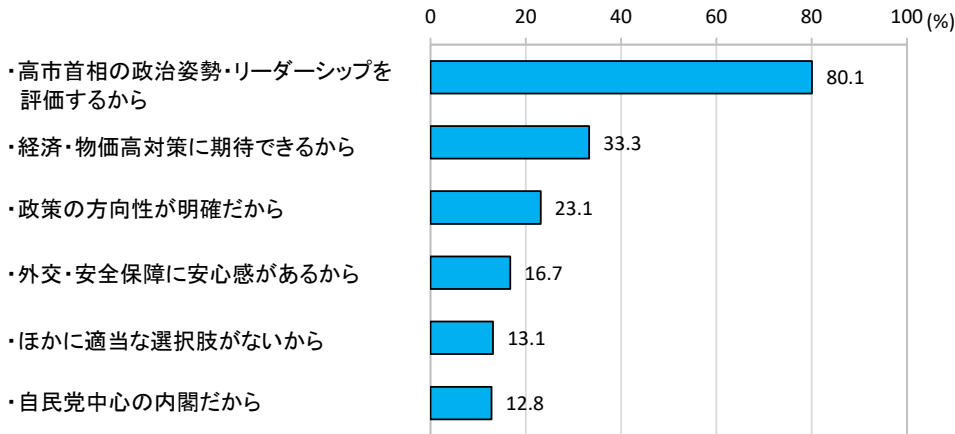
※「衆①」は衆院選、「参①」「参補①」は参院選・参院補選のそれぞれ公示前・告示前の調査で、最終回は選挙後の調査
 ※調査期間が月をまたいだ場合、期間最終日の月を調査実施の月としている
 ※24年10月(衆①)は、内閣発足前に調査票を発送したため、「石破政権」への支持・不支持を聞いた
 ※25年8月(参②)から、選択肢に「支持する」「支持しない」に加え、「何とも言えない・わからない」を追加した

支持する理由

問4 (問3で「支持する」とお答えの方にお尋ねします) 支持する理由は何ですか。次の中から、2つ以内で選んでください。

◆ 支持する理由「政治姿勢・リーダーシップを評価」がトップ8割超 集計表50ページ

高市政権を支持する理由を複数選択（2つ以内）で聞いたところ、「高市首相の政治姿勢・リーダーシップを評価するから」との回答が最も多く、80.1%と8割を超えた。次いで「経済・物価高対策に期待できるから」が33.3%、「政策の方向性が明確だから」が23.1%と上位を占めた。続いて「外交・安全保障に安心感があるから」（16.7%）、「ほかに適当な選択肢がないから」（13.1%）、「自民党中心の内閣だから」（12.8%）となった。



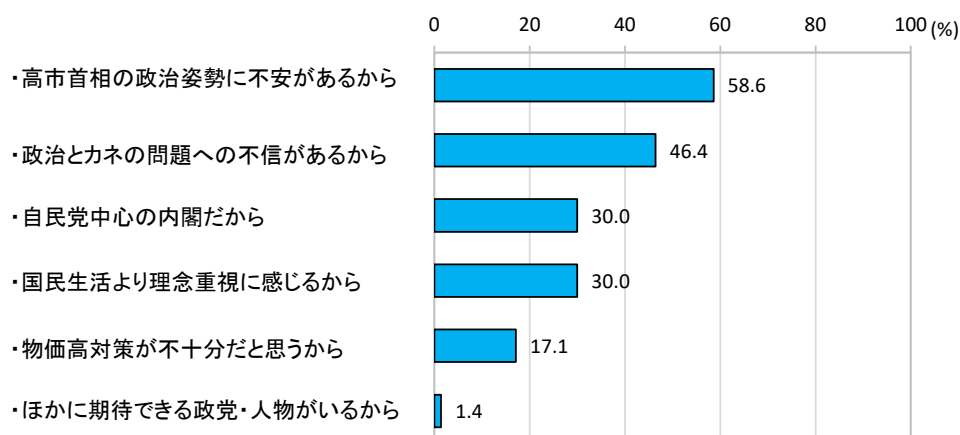
支持しない理由

問5 (問3で「支持しない」とお答えの方にお尋ねします) 支持しない理由は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

◆ 支持しない理由「高市首相の政治姿勢に不安があるから」が6割近く

集計表51ページ

高市政権を支持しない理由を複数選択(2つ以内)で聞いたところ、「高市首相の政治姿勢に不安があるから」との回答が最も多く、58.6%と6割近くに上った。次いで「政治とカネの問題への不信があるから」が46.4%、「自民党中心の内閣だから」と「国民生活より理念重視に感じるから」がともに30.0%、「物価高対策が不十分だと思うから」が17.1%。「ほかに期待できる政党・人物がいるから」は1.4%だった。



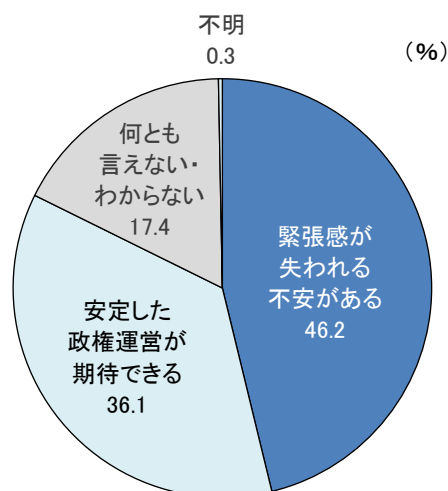
選挙結果の受け止め

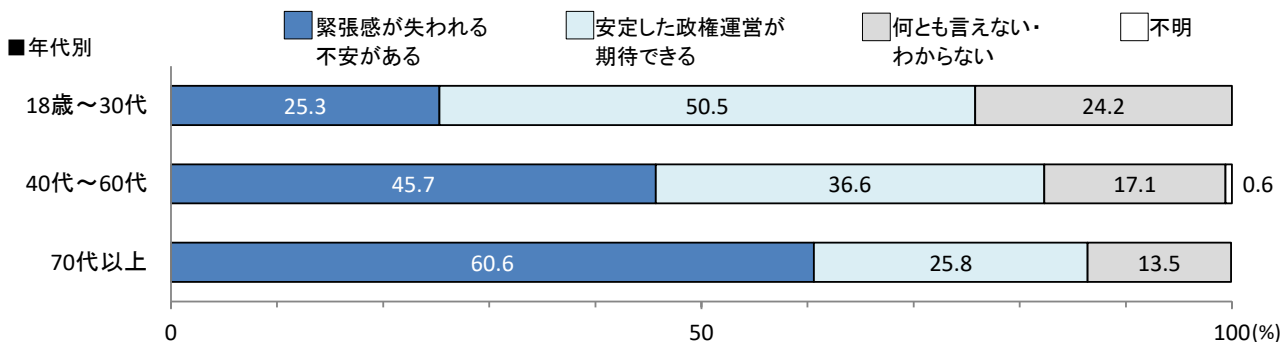
問6 選挙結果を受けて、あなたの受け止めに最も近いものはどれですか。

◆ 「緊張感が失われる不安がある」最多 46.2%

集計表52ページ

「緊張感が失われる不安がある」との回答が最多で46.2%を占め、「安定した政権運営が期待できる」の36.1%を10.1ポイント上回った。年代別にみると、18歳～30代は「安定した政権運営が期待できる」が50.5%と高く、「緊張感が失われる不安がある」(25.3%)を25.2ポイントも上回った。一方で年代が高い40代～60代と70代以上では「緊張感が失われる不安がある」の方がそれぞれ45.7%、60.6%と高く、「安定した政権運営が期待できる」をそれぞれ9.1ポイント、34.8ポイント上回った。





野党が果たすべき役割は

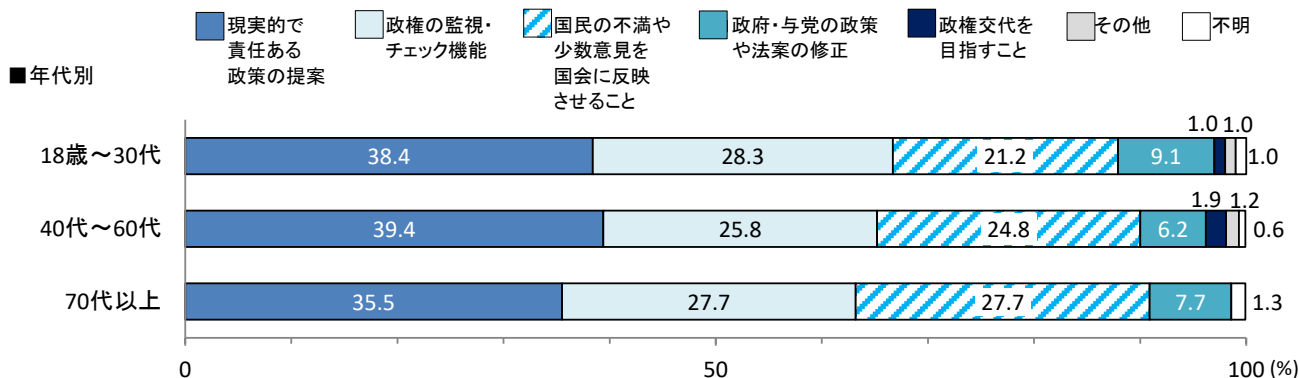
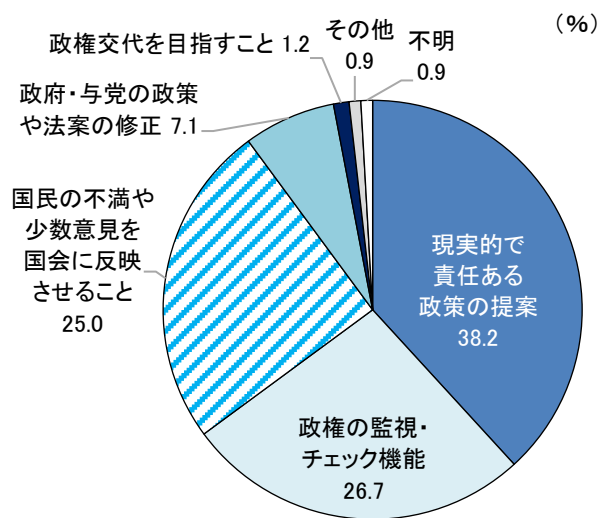
問7 野党が果たすべき役割として、あなたが最も重要だと思うものは何ですか。

◆ 野党の役割「現実的で責任ある政策の提案」がトップ 38.2%

集計表53ページ

野党が果たすべき役割を聞いたところ、「現実的で責任ある政策の提案」が38.2%と唯一3割を超えてトップ。続いて「政権の監視・チェック機能」が26.7%、「国民の不满や少数意見を国会に反映させること」が25.0%で続いた。

年代別にみても、18歳～30代、40代～60代、70代以上のいずれも「現実的で責任ある政策の提案」が最多となった。



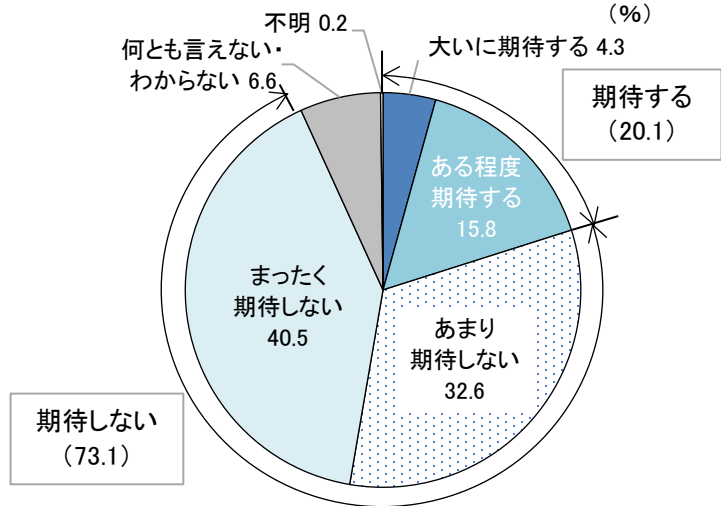
中道改革連合に期待するか

問8 あなたは、新たに結成された中道改革連合に期待しますか、期待しませんか。

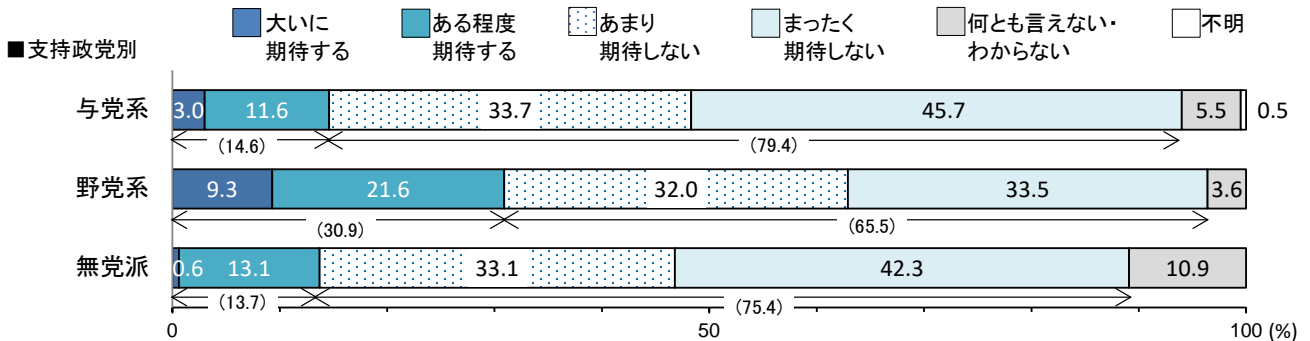
◆「期待しない」計7割超

集計表54ページ

「まったく期待しない」が40.5%と最多で、「あまり期待しない」の32.6%と合わせ、「期待しない」は73.1%と7割を超えた。「ある程度期待する」は15.8%、「大いに期待する」は4.3%にとどまり、選挙結果と同様に新党結成の効果が有権者への期待につながらなかったことがうかがえる。



支持政党別にみると、「支持する政党はない」の無党派層では「期待しない」が75.4%に上った。与党系支持層では79.4%、野党系支持層でも65.5%が「期待しない」と回答。中道改革連合支持層でみると、69.2%が「期待する」とした一方で、「期待しない」が30.8%と3割を超えた。



※ 与党系 自民、維新 野党系 中道、国民、参政、みらい、共産、れいわ、減仲連、立民、公明、保守、社民 無党派 「支持する政党はない」

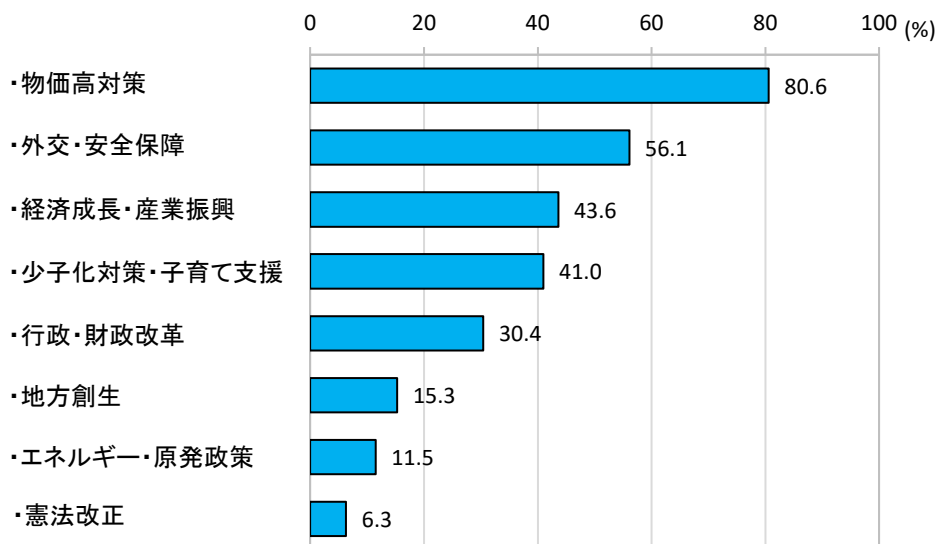
高市政権が注力すべき政策分野は

問9 高市政権が今後、特に力を入れるべきだと思う政策分野は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

◆注力すべき政策「物価高対策」が断トツ8割超

集計表55ページ

高市政権が力を入れるべき政策を複数回答（3つ以内）で聞いたところ、「物価高対策」を挙げた人が断トツで多く80.6%と8割を超えた。次いで「外交・安全保障」が56.1%と多く、過半数が挙げた。続いて「経済成長・産業振興」が43.6%を占めた。「憲法改正」は6.3%にとどまった。



高市首相の消費税政策をどう考えるか

問 10 高市首相は「2年間に限り食料品の消費税ゼロへ議論を加速する」としています。これについて、あなたはどのように考えますか。

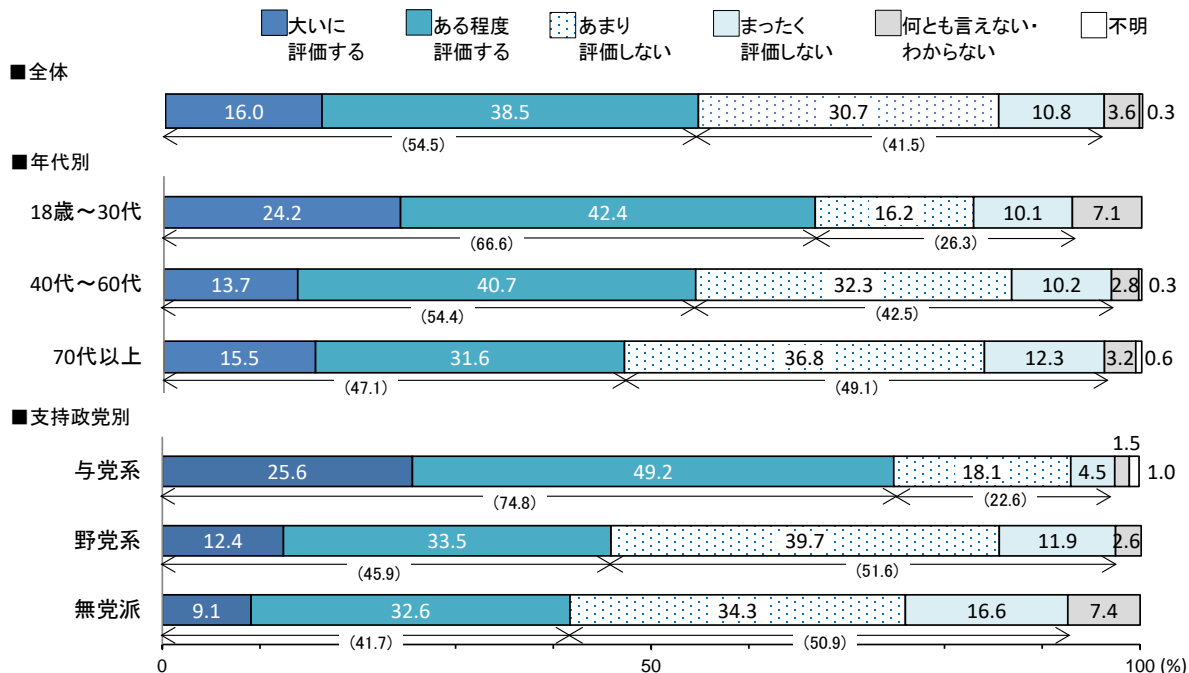
集計表56ページ

◆「評価する」54.5%、「評価しない」41.5%

「2年間に限り食料品の消費税ゼロへ議論を加速する」との高市首相の姿勢について、「ある程度評価する」が38.5%で最も高く、「大いに評価する」の16.0%を合わせた「評価する」は54.5%に上った。一方、「あまり評価しない」は30.7%を占め、「まったく評価しない」の10.8%を合わせた「評価しない」は41.5%となった。

年代別にみると、若い年代ほど「評価する」の割合が高く、18歳～30代と40代～60代はそれぞれ66.6%、54.4%となった。70代以上では「評価しない」がやや上回り、49.1%だった。

支持政党別にみると、与党系支持層は「評価する」が大きく上回り74.8%。野党系支持層は「評価しない」がやや上回り51.6%、無党派層は「評価しない」が50.9%、「評価する」が41.7%だった。



※ 与党系 自民、維新 野党系 中道、国民、参政、みらい、共産、れいわ、減ゆ連、立民、公明、保守、社民 無党派 「支持する政党はない」

高市政権の憲法改正に向けた動きをどう考えるか

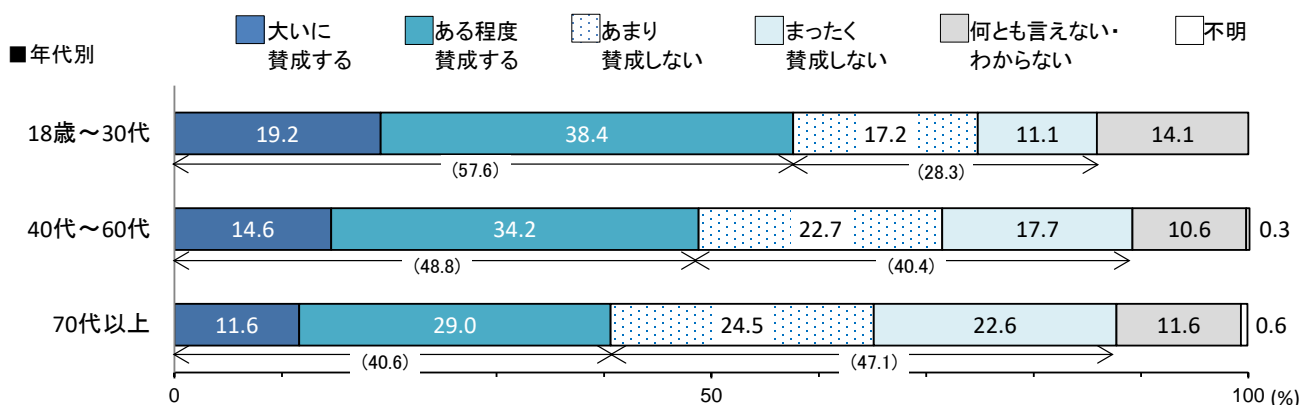
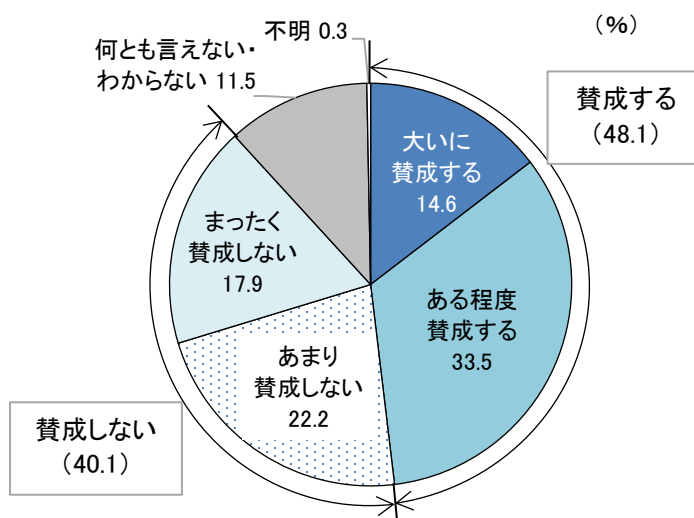
問 11 「自衛隊の明記など憲法改正に向け国民に丁寧の説明する」と自民党が公約に掲げ、高市首相は国会発議へ意欲を示しています。憲法改正に向けた動きについて、あなたはどのように考えますか。

◆「賛成する」48.1%、「賛成しない」40.1%

集計表57ページ

憲法改正に向けた動きについて聞いたところ、「ある程度賛成する」が最多の33.5%、「大いに賛成する」の14.6%を合わせた「賛成する」は48.1%となった。「あまり賛成しない」(22.2%)と「まったく賛成しない」(17.9%)を合わせた「賛成しない」は40.1%。「賛成する」「賛成しない」ともに4割台だが、「賛成する」が8.0ポイント上回った。

年代別にみると、年代が若いほど賛成の割合が高い傾向がみられ、18歳～30代は「賛成する」が57.6%で「賛成しない」の28.3%の2倍超となった。40代～60代は「賛成する」が48.8%で、「賛成しない」(40.4%)を8.4ポイント上回った。一方、70代以上では「賛成しない」が47.1%となり、「賛成する」を6.5ポイント上回った。



高市政権の防衛力の抜本的強化方針 どう考えるか

問 12 高市政権が進めようとしている防衛力の抜本的強化や武器輸出の制約撤廃について、あなたはどのように考えますか。

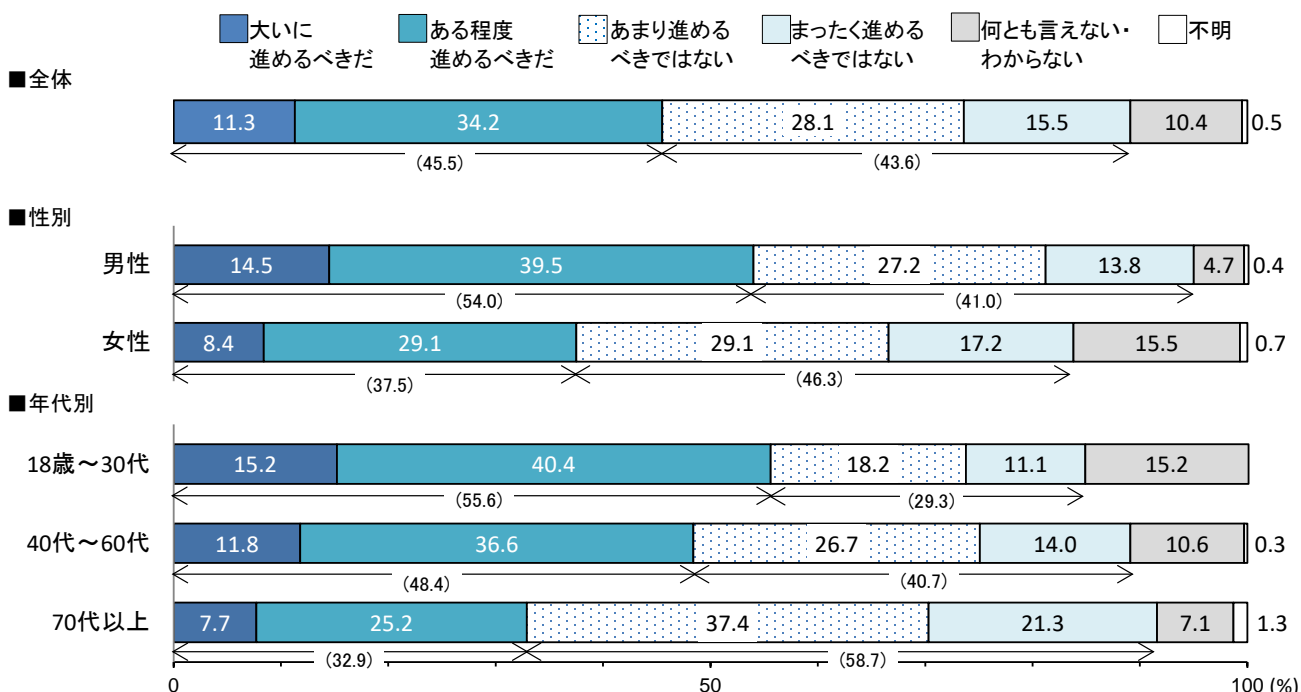
◆「進めるべきだ」45.5%、「進めるべきでない」43.6%で拮抗

集計表58ページ

防衛力の抜本的強化や武器輸出の制約撤廃について聞いたところ、「ある程度進めるべきだ」が最多で34.2%、「大いに進めるべきだ」の11.3%を合わせた「進めるべきだ」は45.5%となった。一方、「あまり進めるべきではない」は28.1%で、「まったく進めるべきではない」の15.5%を合わせた「進めるべきではない」は43.6%で、双方は1.9ポイント差しかなく、拮抗した結果となった。

性別で見ると、男女で正反対の傾向がみられた。「進めるべきだ」は男性が54.0%で5割を超えたのに対し、女性は37.5%にとどまった。逆に「進めるべきではない」は男性が41.0%にとどまったのに対し、女性は46.3%となった。女性は「何とも言えない・わからない」も15.5%あった。

年代別にみると、若い世代ほど「進めるべきだ」が高い傾向となり、高齢世代とは正反対の傾向となった。18歳～30代では「進めるべきだ」が55.6%と過半数を占め、40代～60代では48.4%と5割近くだった。70代以上では逆転し、「進めるべきではない」が58.7%を占め、「進めるべきだ」の32.9%を25.8ポイントも上回った。



高市政権の「国家情報局」設置方針 どう考えるか

問 13 高市政権が進めようとしている「国家情報局」や「対日外国投資委員会」の設置について、あなたはどのように考えますか。

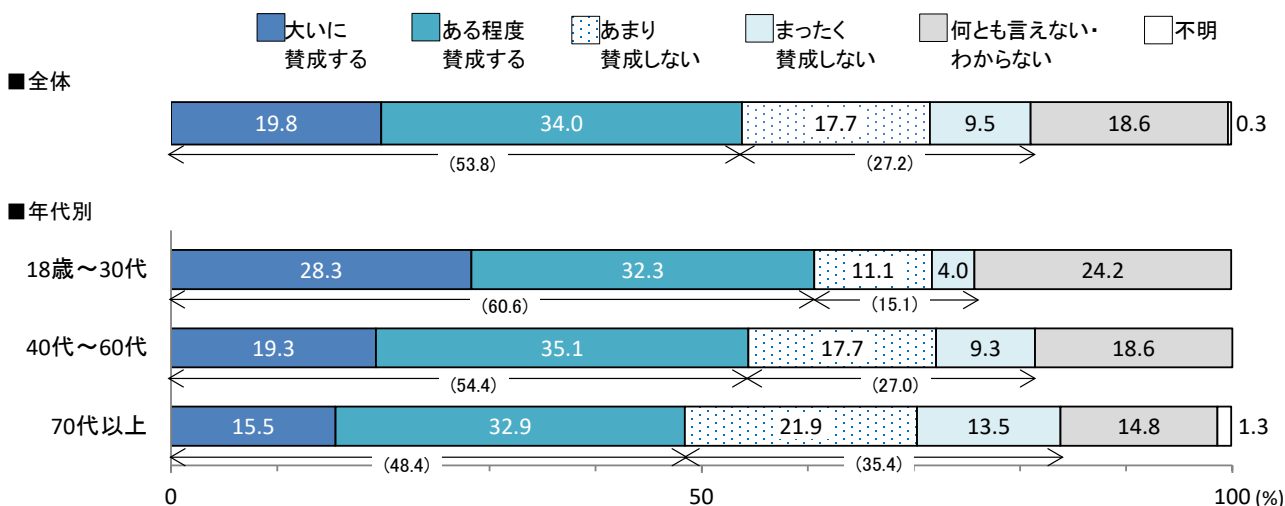
集計表59ページ

◆「賛成する」が53.8%で過半数

「国家情報局」や「対日外国投資委員会」の設置について聞いたところ、すべての年代で「賛成する」が上回った。

全体でみると、「ある程度賛成する」が最多の34.0%を占め、「大いに賛成する」の19.8%を合わせた「賛成する」は53.8%。一方、「あまり賛成しない」(17.7%)と「まったく賛成しない」(9.5%)を合わせた「賛成しない」は27.2%にとどまり、「賛成する」が26.6ポイントも上回った。

年代別でも、「賛成する」は18歳～30代で60.6%、40代～60代で54.4%と過半数を占め、70代以上でも48.4%となり、いずれの年代も「賛成しない」を大きく上回った。



投票したか

問 14 あなたは、今回の衆議院選挙で投票しましたか。

集計表60ページ

◆「投票した」88.0%

実際の県内投票率（小選挙区）60.32%より約28ポイント高く、回答者の関心の高さがうかがえる。



小選挙区の投票先

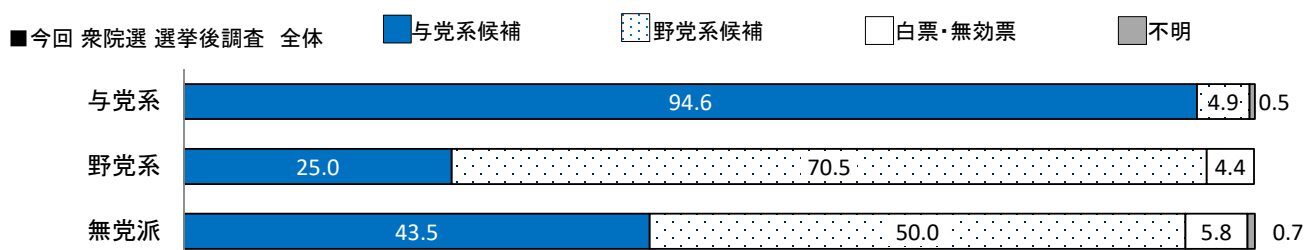
問 15 (問 14 で「投票した」とお答えの方にお尋ねします) 小選挙区では、どの党の候補者に投票しましたか。

◆ 無党派層の 43.5%が与党候補へ投票

集計表61ページ

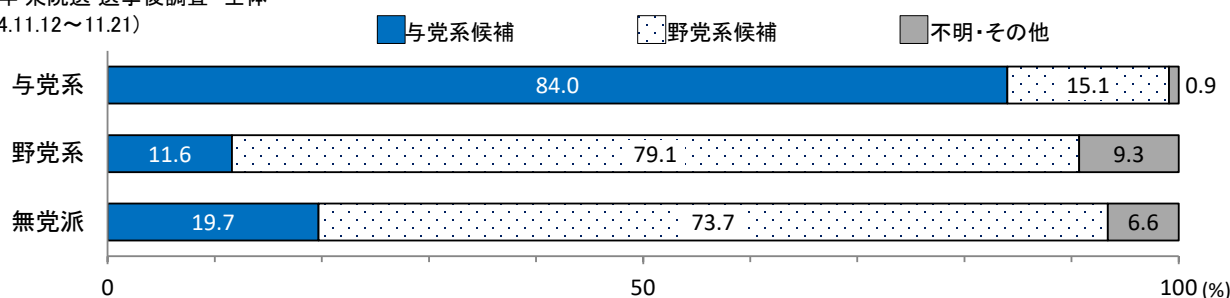
県内小選挙区の投票先を支持政党別で見ると、与党系支持層の 94.6%が与党候補に、野党系支持層の 70.5%が野党候補に投票。「支持する政党はない」の無党派層は、43.5%が与党候補に投票し、50.0%が野党候補に投票したと回答した。

これは前回 2024 年の衆院選の選挙後調査と比べると、与党系支持層が与党候補に投票した割合は 10.6 ポイント上昇、野党系支持層が野党候補に投票した割合は 8.6 ポイント下降した。無党派層が与党候補に投票した割合は 23.8 ポイント上昇、逆に無党派層が野党候補に投票した割合は 23.7 ポイントも下落した。前回 2024 年の衆院選と比べ、無党派層の投票先がより大きく与党候補へ流れたことがうかがえる。



※ 与党系 自民、維新 野党系 中道、国民、参政、みらい、共産、れいわ、減仲連、立民、公明、保守、社民 無党派 「支持する政党はない」

■2024年 衆院選 選挙後調査 全体
(2024.11.12~11.21)



※ 与党系 自民、公明 野党系 立民、維新、国民、れいわ、共産、参政、保守、社民、みんつく 無党派 「支持する政党はない」

比例代表の投票先

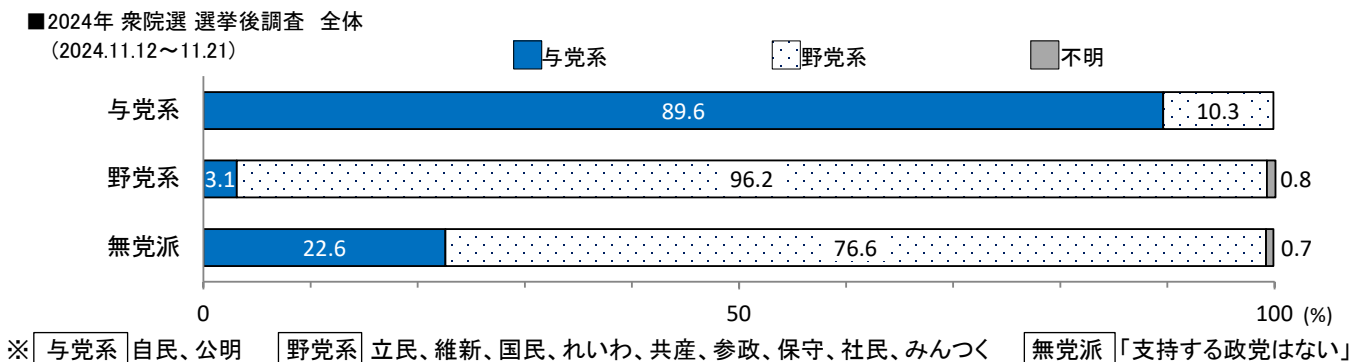
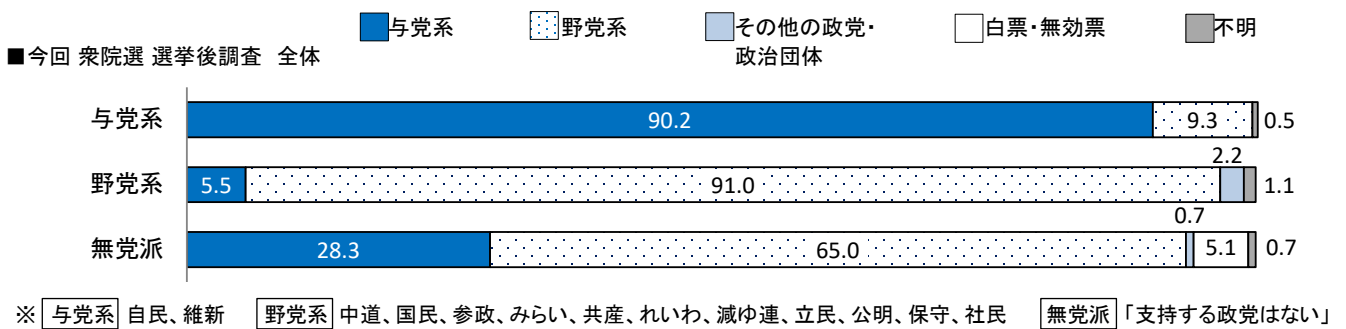
問 16 (問 14 で「投票した」とお答えの方にお尋ねします) 比例代表(北陸信越ブロック)では、どの政党・政治団体に投票しましたか。

◆ 無党派層の 28.3%が与党に投票

集計表62ページ

比例代表の投票先を支持政党別にみると、与党系支持層の 90.2%が与党に、野党系支持層の 91.0%が野党に投票。「支持する政党はない」の無党派層は、28.3%が与党に投票し、65.0%が野党に投票したと回答した。

これは前回 2024 年の衆院選の選挙後調査と比べると、与党系支持層が与党に投票した割合は 0.6 ポイント上昇、野党系支持層が野党に投票した割合は 5.2 ポイント下降となった。また、無党派層が与党に投票した割合では 5.7 ポイント上昇、野党に投票した割合は 11.6 ポイントも下降。小選挙区ほどではないが、比例代表でも無党派層の投票先の一定割合が与党へ流れたことがうかがえる。



ネット情報を参考にしたか

問 17 今回の衆議院選挙で、投票先を決める際、SNSや動画サイトなどインターネット上の情報を参考にしましたか。

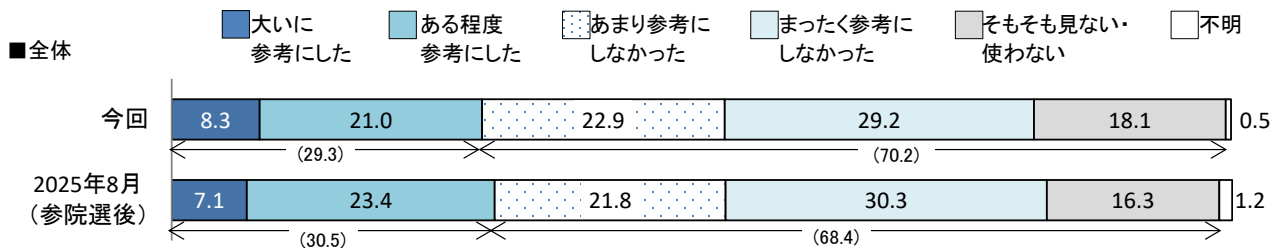
◆「参考にした」計 29.3%

集計表63ページ

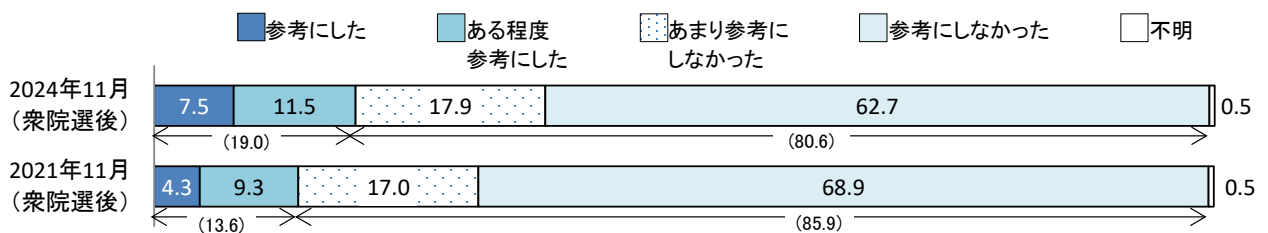
「大いに参考にした」は 8.3%、「ある程度参考にした」が 21.0%で、合計 29.3%。これに対し、「あまり参考にしなかった」は 22.9%、「まったく参考にしなかった」が最多の 29.2%。「そもそも見ない・使わない」が 18.1%。

「参考にした」の合計は、選択肢が異なるため単純に比較できないが、前回 2024 年の衆院選の選挙後調査 (19.0%) に比べると 10.3 ポイントも上昇し、昨年 2025 年の参院選の選挙後調査 (30.5%) とほぼ横ばいで、3 割近い人がインターネット情報を参考にしているという傾向が出た。

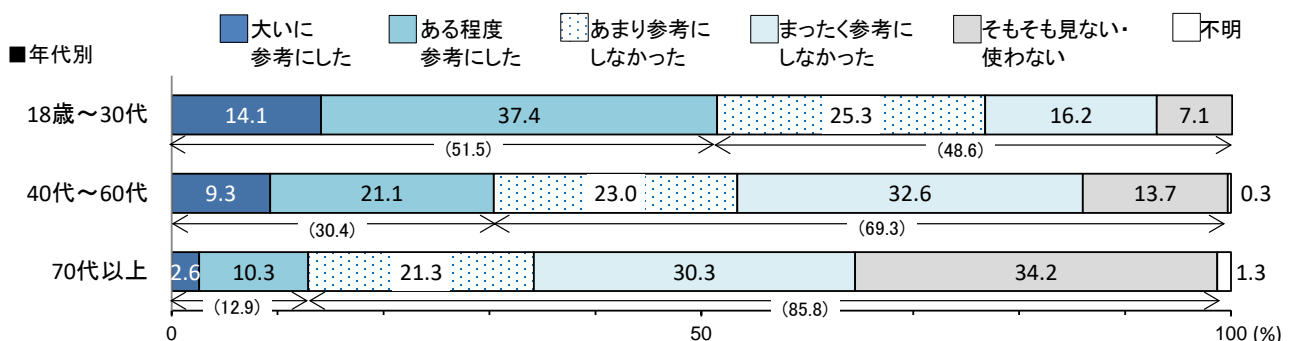
「参考にした」の合計は、18 歳～30 代が 51.5%と過半数に達し、40～60 代は 30.4%、70 代以上は 12.9%にとどまり、若い世代ほどネット情報を参考にしている結果となった。支持政党別では、自民党支持層は 36.4%、日本維新の会支持層は 30.4%となり、与党系支持層でみると 35.7%。これに対し、野党系支持層は 28.9%となったが、支持政党によって中道改革連合支持層 (11.5%)、参政党支持層 (66.6%) など大きな差が出た。



※「SNSや動画サイトなどインターネット上の情報を参考にしたか」を聞き、選択肢に「そもそも見ない・使わない」を追加した。



※「インターネットを使った選挙運動を参考にしたか」を聞いた。



支持政党

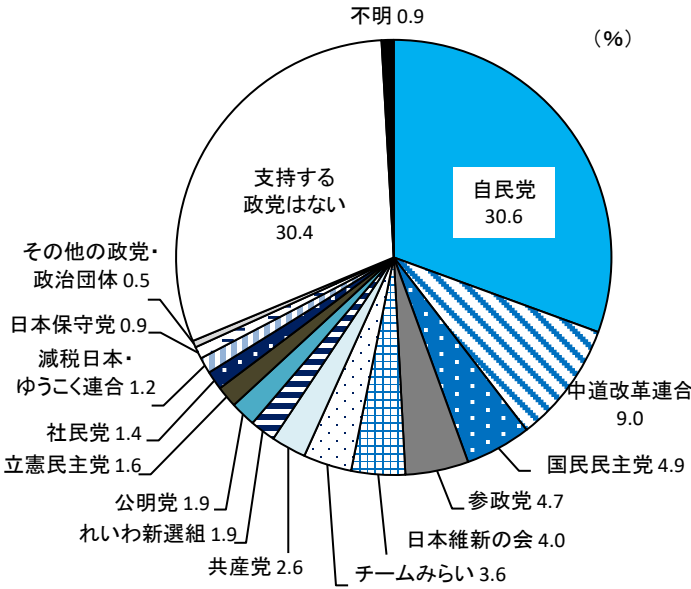
問 18 あなたは、どの政党を支持していますか。次の中から1つ選んでください。

◆ 自民党 30.6%、公示前比 2.1ポイント上昇

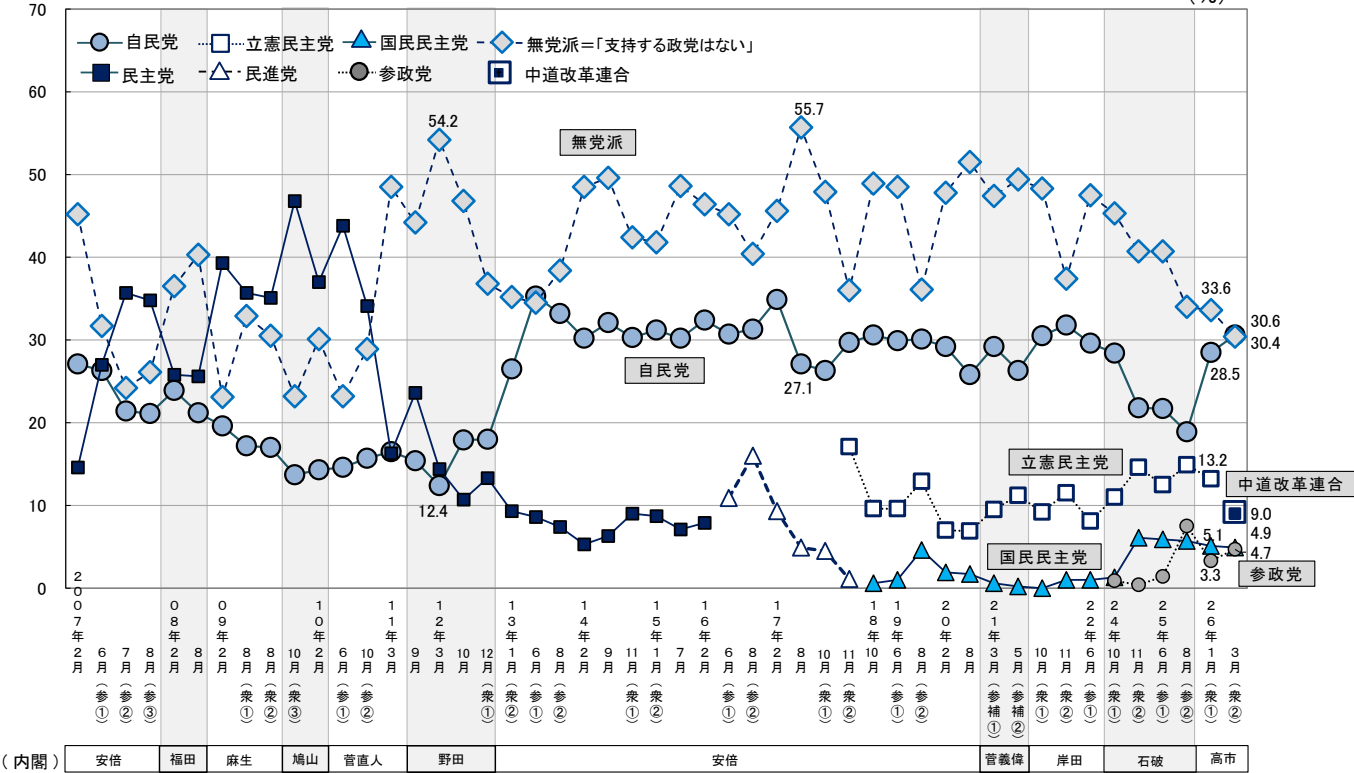
集計表64ページ

自民党が30.6%で最も高く、衆院選公示前の本調査に比べて2.1ポイント上昇した。次いで中道改革連合の9.0%。立憲民主党（1.6%）と公明党（1.9%）を合わせても12.5%で、公示前調査の立憲民主党（新党を含む）の13.2%と公明党（新党を含む）の4.7%を合わせた17.9%に比べ、5.4ポイント下降となった。3番目は国民民主党で4.9%、0.2ポイント下降。4番目が参政党の4.7%で1.4ポイント上昇だった。無党派は30.4%となった。

年代別にみると、18歳～30代は自民党が36.4%と高く、参政党と国民民主党もそれぞれ11.1%、10.1%と2桁の支持を集めた。一方で中道改革連合は2.0%にとどまり、立憲民主党、公明党を合わせた3党合計でも3.0%だった。中道改革連合は40代～60代でも6.5%にとどまり、3党合計でも9.7%。70代以上ではやや支持を集め18.7%、3党合計は24.5%となった。



【政党支持の推移】 モニター調査(定例調査と衆・参院選連続調査)



※「衆①」は衆院選、「参①」「参補①」は参院選・参院補選のそれぞれ公示前・告示前の調査で、最終回は選挙後の調査
 ※調査期間が月をまたいだ場合、期間最終日の月を調査実施の月としている

注力してほしい「地方に関わる政策」は

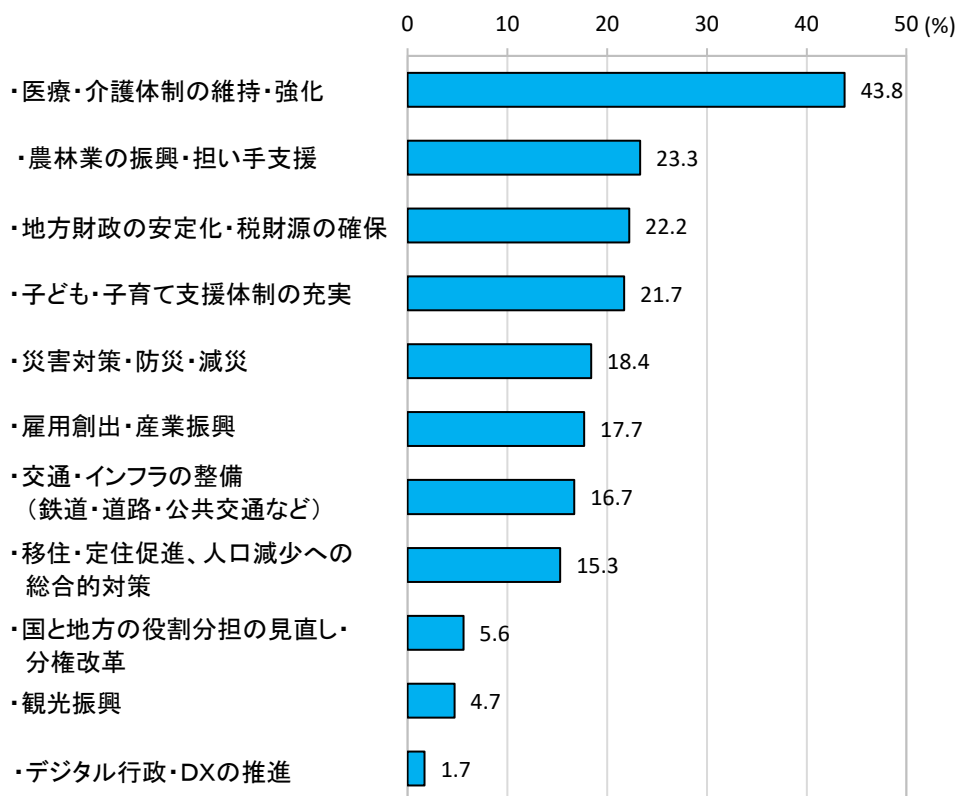
問 19 今後、国に特に力を入れてほしい「地方に関わる政策」は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

◆「医療・介護体制の維持・強化」がトップ 43.8%

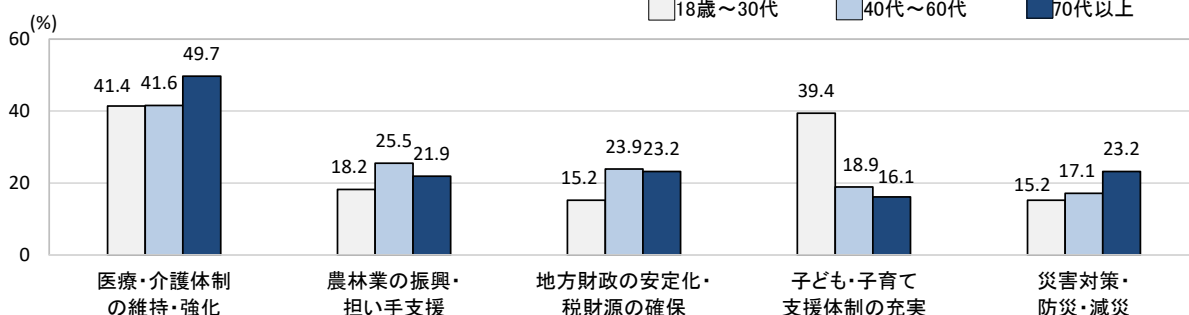
集計表65ページ

国に特に力を入れてほしい「地方に関わる政策」を複数回答（2つ以内）で聞いたところ、「医療・介護体制の維持・強化」が43.8%と唯一4割を超えトップ。医療・介護に関する政策への注力を求める声強い結果となった。2番目は「農林業の振興・担い手支援」の23.3%、3番目は「地方財政の安定化・税財源の確保」の22.2%、4番目が「子ども・子育て支援体制の充実」の21.7%となり、いずれも2割超となった。

年代別では、「医療・介護体制の維持・強化」はすべての年代でトップ。2番目は18歳～30代では「子ども・子育て支援体制の充実」（39.4%）が4割近くとなり、40代～60代では「農林業の振興・担い手支援」（25.5%）が2割を超えた。70代以上では「地方財政の安定化・税財源の確保」と「災害対策・防災・減災」がともに23.2%で高かった。



■年代別 (上位5項目)



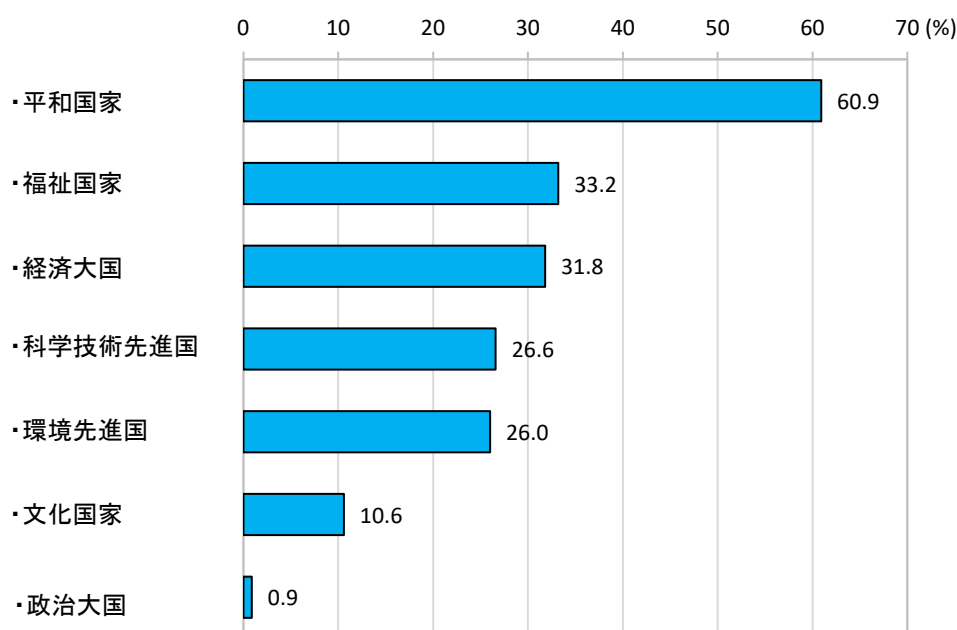
日本がどのような国になってほしいか

問 20 あなたは、今後、日本がどのような国になってほしいと思いますか。次の中から、2つ以内に絞ってお答えください。

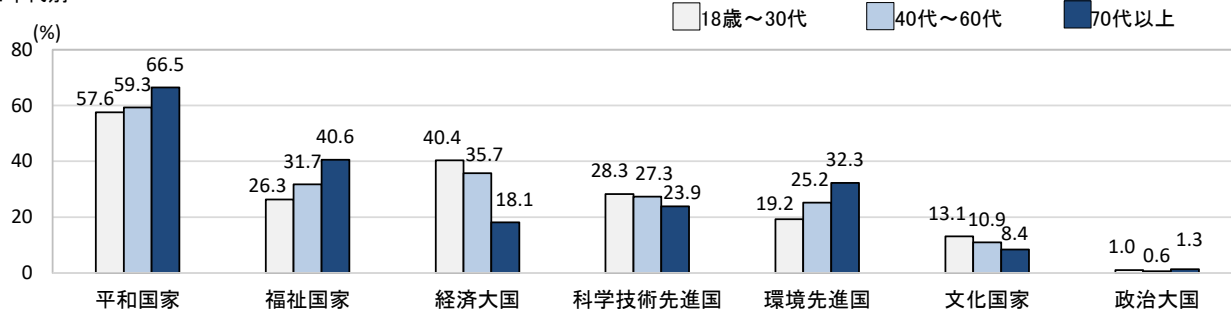
◆ 平和国家が断トツの 60.9%

集計表66ページ

日本がどのような国になってほしいかを複数選択（2つ以内）で聞いたところ、「平和国家」と答えた割合は 60.9%と 6 割を超え、断トツ。性別で見ると、女性が 72.0%と高く、男性の 49.6%を 22.4 ポイントも上回った。年代別にみても、全年代でトップ。2 番目は 18 歳～30 代、40 代～60 代が「経済大国」、70 代以上では「福祉国家」。3 番目は 18 歳～30 代が「科学技術先進国」、40 代～60 代が「福祉国家」、70 代以上が「環境先進国」となった。



■ 年代別



Ⅲ 調査票

「2026衆院選 モニター連続調査（選挙後）」調査票

問1 今回の衆議院選挙で、自民党が単独で3分の2を超える議席を得た結果について、あなたはどう受け止めますか。

- ① 大いに評価する
- ② ある程度評価する
- ③ あまり評価しない
- ④ まったく評価しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問2 今回の衆議院選挙で、自民党が長野県内の5小選挙区で全勝しました。これは現行選挙制度が導入された1996年以降で初めてです。この結果について、あなたはどう受け止めますか。

- ① 大いに評価する
- ② ある程度評価する
- ③ あまり評価しない
- ④ まったく評価しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問3 今回の衆議院選挙後の国会で、引き続き高市早苗氏が首相に指名される見通しです。あなたは高市政権を支持しますか。

- ① 支持する → 問4(次頁)、問6へ
- ② 支持しない → 問5(次頁)、問6へ
- ③ 何とも言えない・わからない → 問6(次頁)へ

問4 (問3で「① 支持する」とお答えの方にお尋ねします)

支持する理由は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

- ① 自民党中心の内閣だから
- ② 高市首相の政治姿勢・リーダーシップを評価するから
- ③ 経済・物価高対策に期待できるから
- ④ 外交・安全保障に安心感があるから
- ⑤ 政策の方向性が明確だから
- ⑥ ほかに適当な選択肢がないから
- ⑦ その他 ()

問5 (問3で「② 支持しない」とお答えの方にお尋ねします)

支持しない理由は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

- ① 自民党中心の内閣だから
- ② 高市首相の政治姿勢に不安があるから
- ③ 物価高対策が不十分だと思うから
- ④ 国民生活より理念重視に感じるから
- ⑤ 政治とカネの問題への不信があるから
- ⑥ ほかに期待できる政党・人物がいるから
- ⑦ その他 ()

(全員の方にお尋ねします)

問6 選挙結果を受けて、あなたの受け止めに最も近いものはどれですか。

- ① 安定した政権運営が期待できる
- ② 緊張感が失われる不安がある
- ③ 何とも言えない・わからない

--

問7 野党が果たすべき役割として、あなたが最も重要だと思うものは何ですか。

- ① 政権の監視・チェック機能
- ② 現実的で責任ある政策の提案
- ③ 政府・与党の政策や法案の修正
- ④ 国民の不満や少数意見を国会に反映させること
- ⑤ 政権交代を目指すこと
- ⑥ その他 ()

--

問8 あなたは、新たに結成された中道改革連合に期待しますか、期待しませんか。

- ① 大いに期待する
- ② ある程度期待する
- ③ あまり期待しない
- ④ まったく期待しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問9 高市政権が今後、特に力を入れるべきだと思う政策分野は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ① 物価高対策
- ② 経済成長・産業振興
- ③ 外交・安全保障
- ④ 憲法改正
- ⑤ 少子化対策・子育て支援
- ⑥ エネルギー・原発政策
- ⑦ 行政・財政改革
- ⑧ 地方創生
- ⑨ その他 ()

問10 高市首相は「2年間に限り食料品の消費税ゼロへ議論を加速する」としています。これについて、あなたはどのように考えますか。

- ① 大いに評価する
- ② ある程度評価する
- ③ あまり評価しない
- ④ まったく評価しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問11 「自衛隊の明記など憲法改正に向け国民に丁寧に説明する」と自民党が公約に掲げ、高市首相は国会発議へ意欲を示しています。憲法改正に向けた動きについて、あなたはどのように考えますか。

- ① 大いに賛成する
- ② ある程度賛成する
- ③ あまり賛成しない
- ④ まったく賛成しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問12 高市政権が進めようとしている防衛力の抜本的強化や武器輸出の制約撤廃について、あなたはどのように考えますか。

- ① 大いに進めるべきだ
- ② ある程度進めるべきだ
- ③ あまり進めるべきではない
- ④ まったく進めるべきではない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問13 高市政権が進めようとしている「国家情報局」や「対日外国投資委員会」の設置について、あなたはどのように考えますか。

- ① 大いに賛成する
- ② ある程度賛成する
- ③ あまり賛成しない
- ④ まったく賛成しない
- ⑤ 何とも言えない・わからない

問14 あなたは、今回の衆議院選挙で投票しましたか。

- ① 投票した → 問15、問16、問17(次頁)へ
- ② 投票しなかった → 問17(次頁)へ

問15 (問14で「① 投票した」とお答えの方にお尋ねします)
小選挙区では、どの党の候補者に投票しましたか。

- ① 自民党
- ② 中道改革連合
- ③ 日本維新の会
- ④ 国民民主党
- ⑤ 共産党
- ⑥ れいわ新選組
- ⑦ 参政党
- ⑧ 白票・無効票

問16 (問14で「① 投票した」とお答えの方にお尋ねします)

比例代表(北陸信越ブロック)では、どの政党・政治団体に投票しましたか。

- ① 自民党
- ② 中道改革連合
- ③ 日本維新の会
- ④ 国民民主党
- ⑤ 共産党
- ⑥ れいわ新選組
- ⑦ 減税日本・ゆうこく連合
- ⑧ 参政党
- ⑨ 日本保守党
- ⑩ 社民党
- ⑪ その他の政党・政治団体
- ⑫ 白票・無効票

(全員の方にお尋ねします)

問17 今回の衆議院選挙で、投票先を決める際、SNSや動画サイトなどインターネット上の情報を参考にしましたか。

- ① 大いに参考にした
- ② ある程度参考にした
- ③ あまり参考にしなかった
- ④ まったく参考にしなかった
- ⑤ そもそも見ない・使わない

問18 あなたは、どの政党を支持していますか。次の中から1つ選んでください。

- ① 自民党
- ② 中道改革連合
- ③ 日本維新の会
- ④ 国民民主党
- ⑤ 参政党
- ⑥ チームみらい
- ⑦ 共産党
- ⑧ れいわ新選組
- ⑨ 減税日本・ゆうこく連合
- ⑩ 立憲民主党
- ⑪ 公明党
- ⑫ 日本保守党
- ⑬ 社民党
- ⑭ その他の政党・政治団体
- ⑮ 支持する政党はない

問19 今後、国に特に力を入れてほしい「地方に関わる政策」は何ですか。次の中から2つ以内で選んでください。

- ① 観光振興
- ② 農林業の振興・担い手支援
- ③ 医療・介護体制の維持・強化
- ④ デジタル行政・DXの推進
- ⑤ 交通・インフラの整備（鉄道・道路・公共交通など）
- ⑥ 移住・定住促進、人口減少への総合的対策
- ⑦ 子ども・子育て支援体制の充実
- ⑧ 雇用創出・産業振興
- ⑨ 災害対策・防災・減災
- ⑩ 地方財政の安定化・税財源の確保
- ⑪ 国と地方の役割分担の見直し・分権改革
- ⑫ その他（ ）
- ⑬ 特になし・わからない

☞ 次のページへお進みください ☞☞

問20 あなたは、今後、日本がどのような国になってほしいと思いますか。
次の中から、2つ以内に絞ってお答えください。

- ① 科学技術先進国
- ② 環境先進国
- ③ 経済大国
- ④ 政治大国
- ⑤ 福祉国家
- ⑥ 文化国家
- ⑦ 平和国家
- ⑧ その他 ()
- ⑨ 特にない・わからない

誠にお手数ですが、以下3項目のご記入も、よろしくお願いいたします

<性別> ① 男性 ② 女性 ③ 回答しない

<年代> ① 10代 ⑤ 50代
 ② 20代 ⑥ 60代
 ③ 30代 ⑦ 70代
 ④ 40代 ⑧ 80代以上

<職業> ① 事務・技術系の勤め
 ② 現業・サービス系の勤め
 ③ 役員・管理職・自由業
 ④ 商工・自営業
 ⑤ 農・林・漁業
 ⑥ 専業主婦・主夫
 ⑦ パート・アルバイト
 ⑧ 学生
 ⑨ 無職
 ⑩ その他 (具体的に)

本ホームページでは、報告書の一部を抜粋して掲載しています。長野県世論調査協会の会員の皆様には、報告書を郵送・電子メールでお届けしており、全ての調査結果をご覧いただくことができます。入会のお問い合わせは、[こちら](#)へどうぞ